令和２年度

男女共同参画に関する
福井市民意識
アンケート調査報告書

福 井 市

目　　次

Ⅰ　調査の概要 **1**

1　調査の目的 1

2　調査対象及び方法 1

3　調査期間 1

4　調査項目 1

5　回収結果 2

Ⅱ　調査対象者の属性 **3**

Ⅲ　調査結果 **5**

◆ 男女平等に関する意識 5

◆ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和） 10

◆ 男女がともに担う家庭生活づくり 16

◆ 男女とも活躍できる職場環境の推進 18

◆ 政策・方針決定過程への女性参画 24

◆ 個性や能力を生かす学校教育の推進 27

◆ 男女がともに担う地域社会づくり 28

◆ 防災等における男女共同参画の推進 34

◆ 配偶者等からの暴力防止に関する意識 36

◆ 多様な性に関する意識 41

◆ 男女共同参画推進のための取組 46

Ⅳ　自由意見 **49**

Ⅴ　調査票 **55**

報告書の見方

1　グラフ中の（ＳＡ）は単一回答、（MA）は複数回答を示す。

2　グラフ中の（N）は、その設問における回答者数を表す。

3　単一回答では、構成比の数値を少数第２位で四捨五入したため、合計が100.0%に過不足することがある。

4　複数回答では、回答割合の合計は100.0%を超える。

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

福井市では、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会の実現」を目指し、第５次男女共同参画基本計画（平成２９～令和３年度）に基づく様々な施策に取り組んでいる。

今回、新たに「第６次男女共同参画基本計画（令和４～８年度）」を策定するにあたり、市民の男女共同参画に関する意識と実態を把握し、今後の施策に反映させることを目的に調査を実施した。

２　調査対象及び方法

・ 対　　象　　福井市在住の２０歳代～６０歳代の男女１，５００人
・ 抽出方法　　令和２年７月１日現在の住民基本台帳から無作為抽出
・ 調査方法　　郵送及びインターネットによる

３　調査期間

令和２年８月３日（月）～８月２８日（金）

４　調査項目

・男女平等に関する意識（２問）
・ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）（３問）
・男女がともに担う家庭生活づくり（１問）
・男女とも活躍できる職場環境の推進（４問）
・政策・方針決定過程への女性参画（３問）
・個性や能力を生かす学校教育の推進（１問）
・男女がともに担う地域社会づくり（３問）
・防災等における男女共同参画の推進（１問）
・配偶者等からの暴力防止に関する意識（３問）
・多様な性に関する意識（３問）
・男女共同参画推進のための取組（１問）

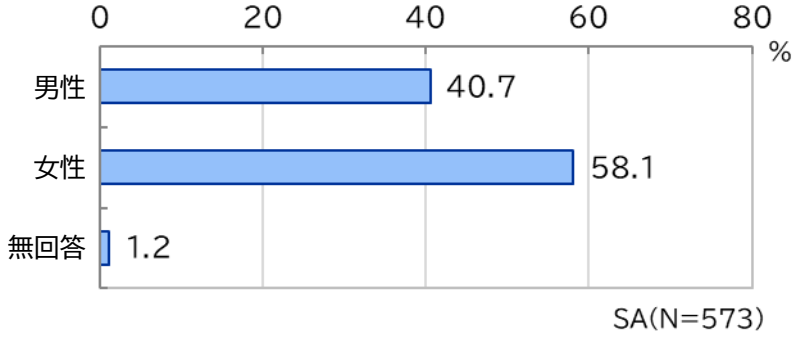
５　回収結果

回収数（率）　　５７３票（３８．２％）

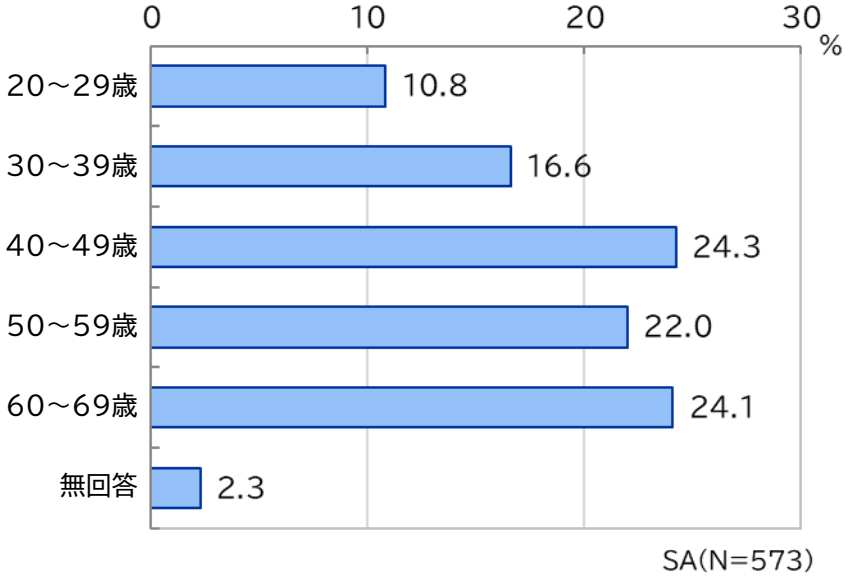
		標本数	回収数			回収率
			全体	郵便(割合)	インターネット(割合)	
全 体		1,500	573	414 (72.3%)	159 (27.7%)	38.2%
性別	男 性	752	233	158(67.8%)	75 (32.2%)	31.0%
	女 性	748	333	249(74.8%)	84(25.2%)	44.5%
	無回答	－	7	7(100.0%)	0	－
年齢別	20～29 歳	229	62	38(61.3%)	24(38.7%)	27.1%
	30～39 歳	276	95	59(62.1%)	36(37.9%)	34.4%
	40～49 歳	354	139	91(65.5%)	48(34.5%)	39.3%
	50～59 歳	321	126	92(73.0%)	34(27.0%)	39.3%
	60～69 歳	320	138	121(87.7%)	17(12.3%)	43.1%
	無回答	－	13	13(100.0%)	0	－

Ⅱ　調査対象者の属性

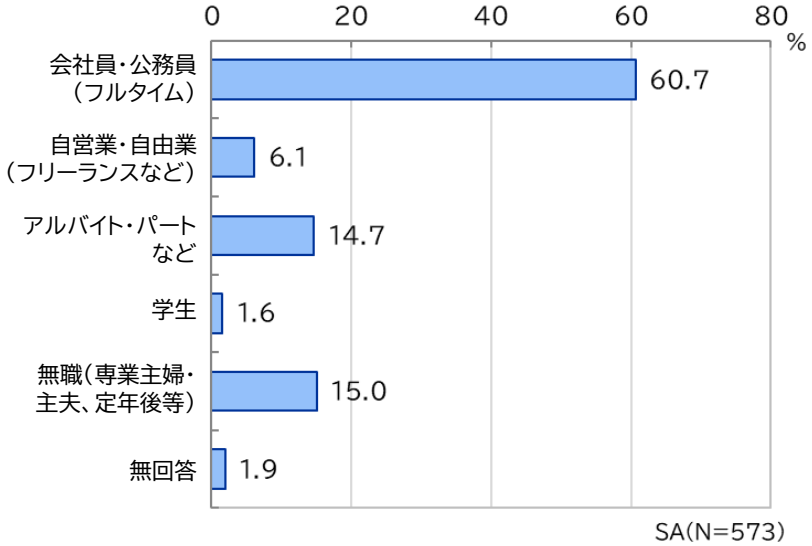
問１　性別は



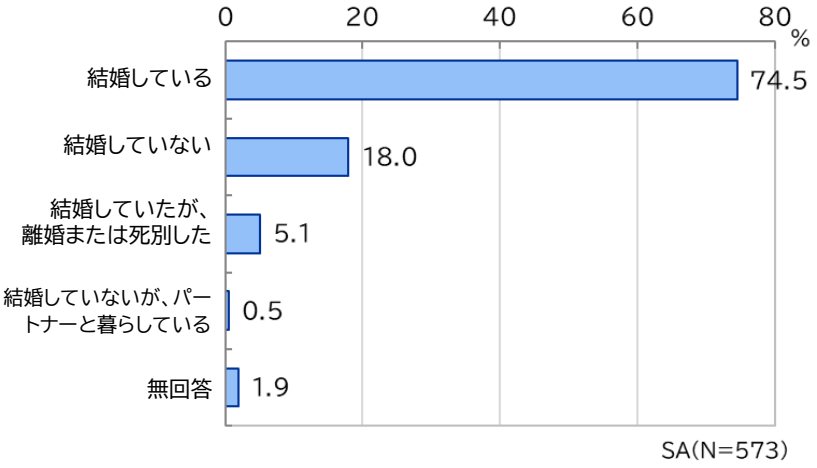
問２　年齢は



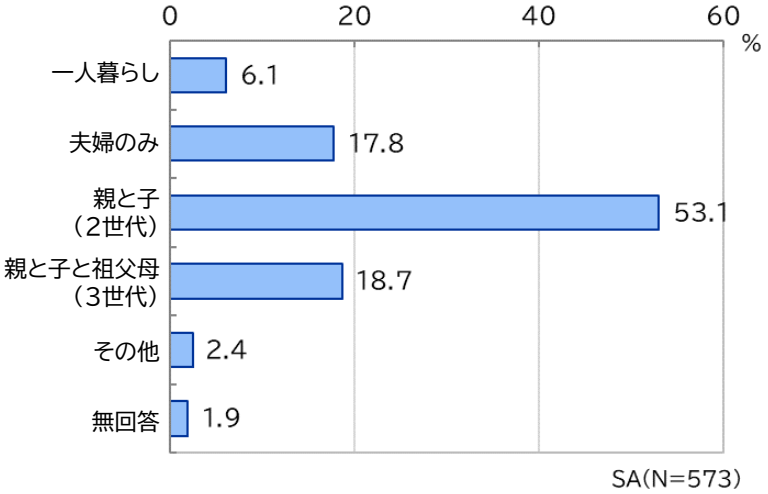
問３　職業についてお答えください。



問４　結婚していますか。



問５　家族構成は



Ⅲ　調査結果

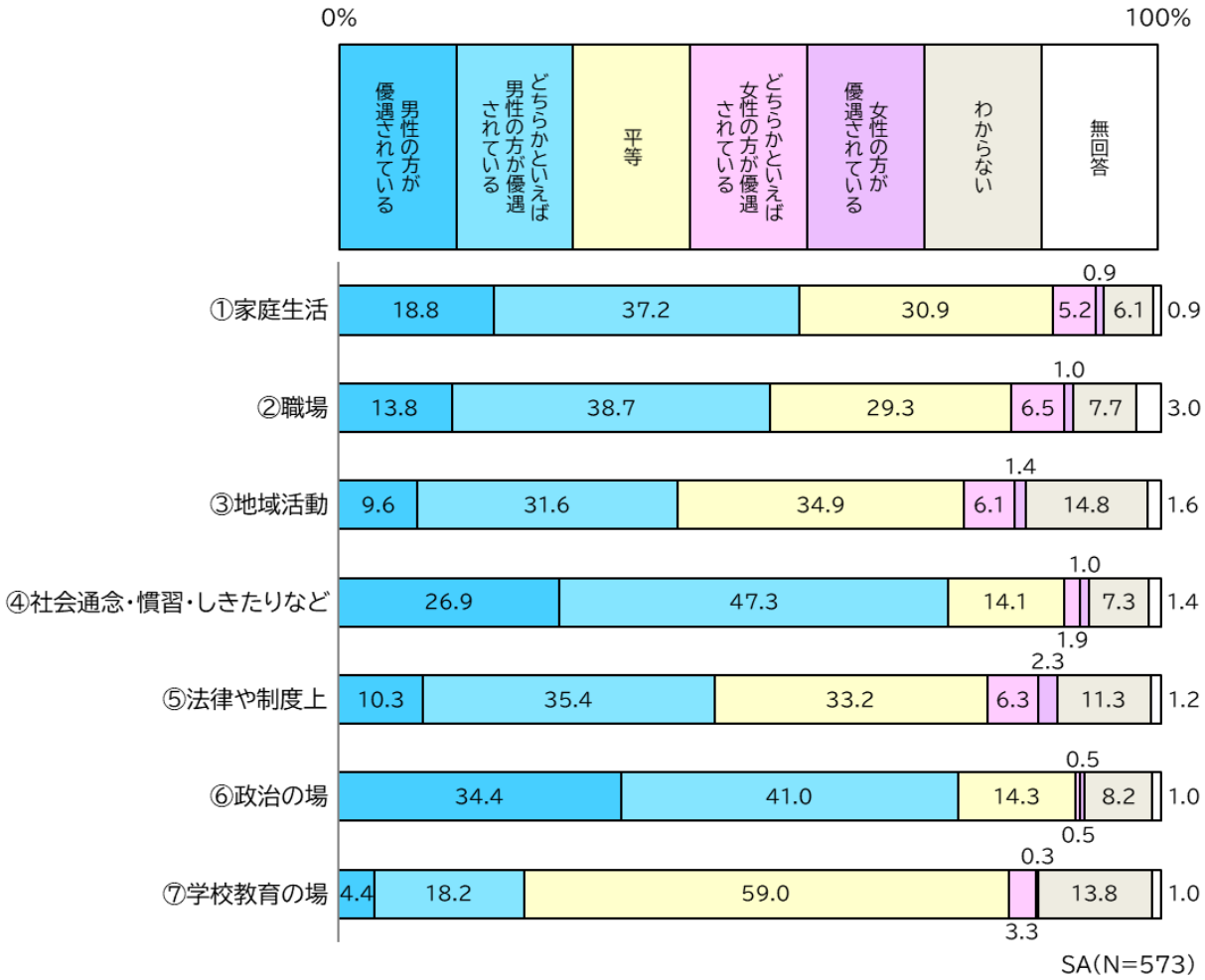
◆男女平等に関する意識について

問６　現在、①～⑦の分野で男女平等になっていると思いますか。
（それぞれ１つ）

平等と思う分野は「学校教育の場」が最も高い

平等と思う分野は、「学校教育の場」（59.0%）が最も高く、次いで「地域活動」（34.9%）が高くなっている。

男性優遇を意識（男性の方が優遇、どちらかといえば男性が優遇されていると思う）する分野は「政治の場」（75.4%）が最も高く、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」（74.2%）が高くなっている。

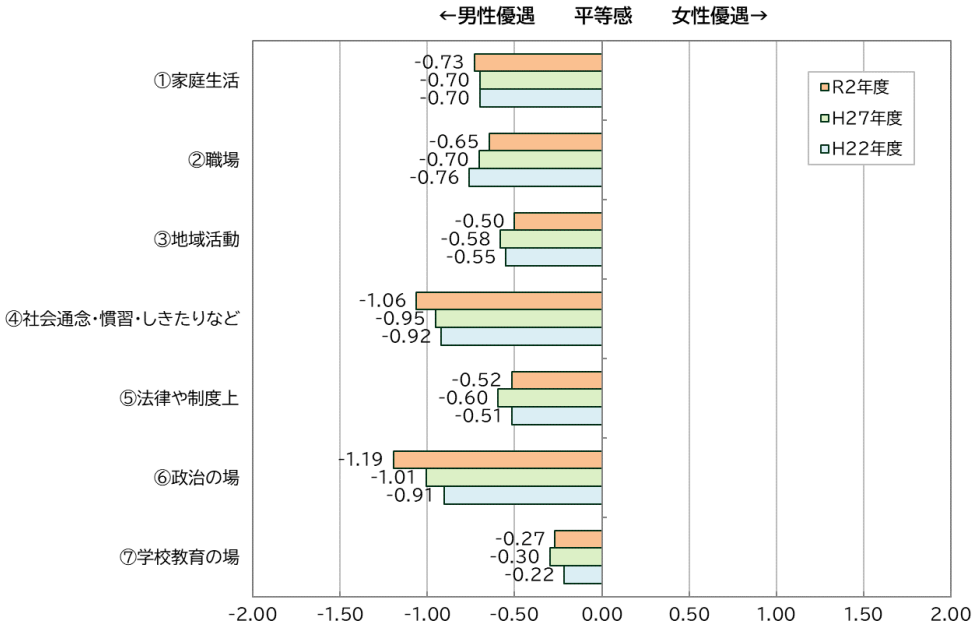


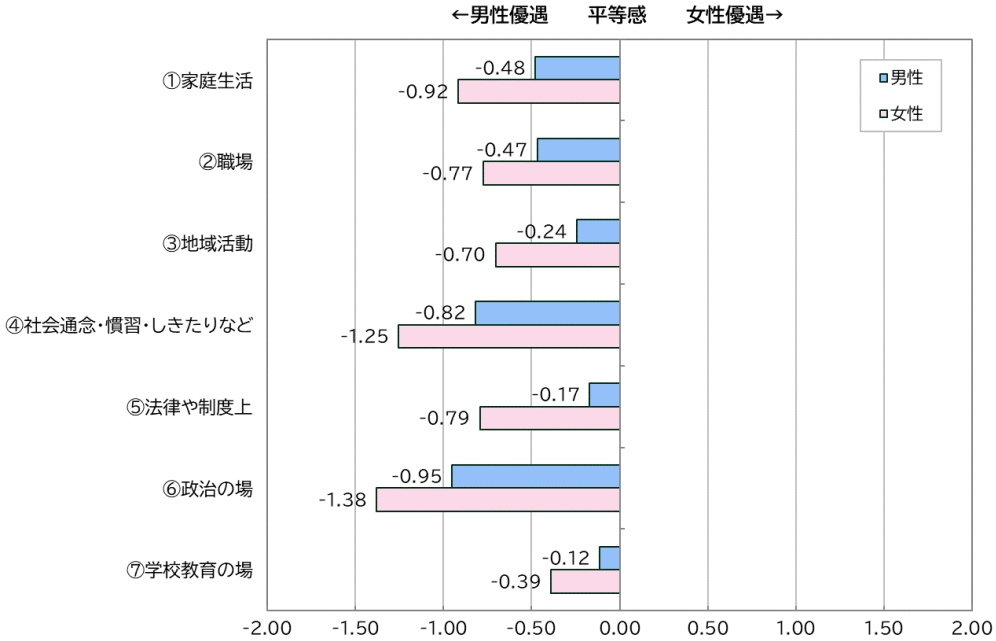
回答項目を下記の表により得点化し、その平均値をグラフ化した結果、全ての項目で「男性優遇」となった。

前回（H27 年度）、前々回（H22 年度）と比較すると、「職場」で「男性優遇」が減少傾向となっているが、「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」は「男性優遇」が増加傾向にある。

性別で見ると、「法律や制度上」で意識の差が大きくなっている。

男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等 わからない	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている
-2点	-1点	0点	1点	2点





※回答項目を得点化し、その平均値を表したグラフ。

「女性優遇」に数値が表示されていないのは、「女性優遇」の数値より「男性優遇」の数値が上回っていることを示す。

問７　結婚・家庭などについてどうお考えですか。（それぞれ１つ）

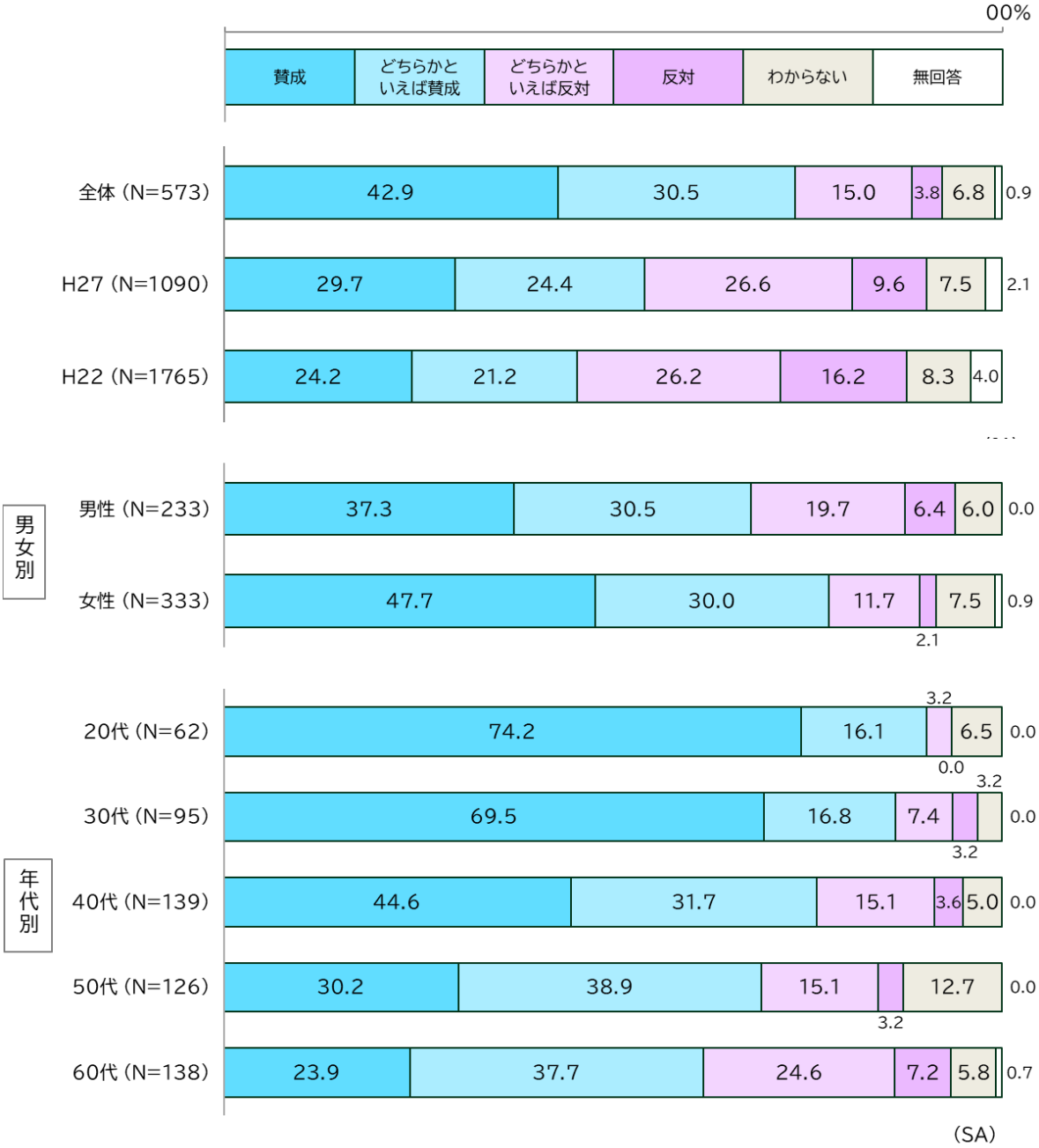
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

賛成派が７割以上

賛成派（賛成、どちらかといえば賛成）（73.4%）が、反対派（反対、どちらかといえば反対）（18.8%）を 54.6 ポイント上回っている。

前回（H27 年度）、前々回（H22 年度）と比較すると、賛成派が増加、反対派が減少傾向にある。

年代別では、若い年代になるほど、賛成派の割合が高くなっている。

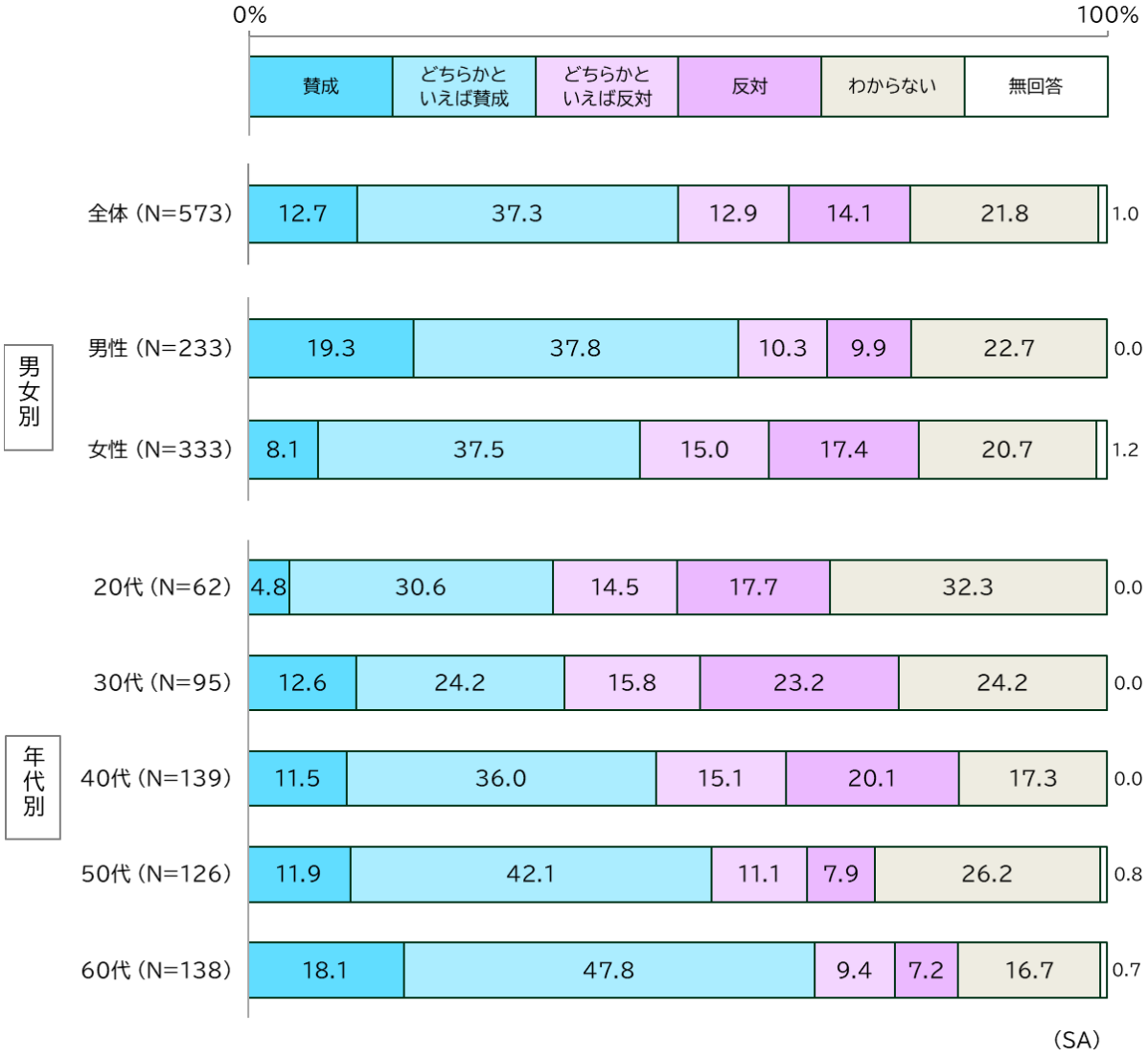


②結婚したら子どもを持つべきである

賛成派が５割

賛成派（賛成、どちらかといえば賛成）（50.0%）が、反対派（反対、どちらかといえば反対）（27.0%）を 23 ポイント上回っている。

年代別では、年代が上がるほど、賛成派の割合が高くなっている。

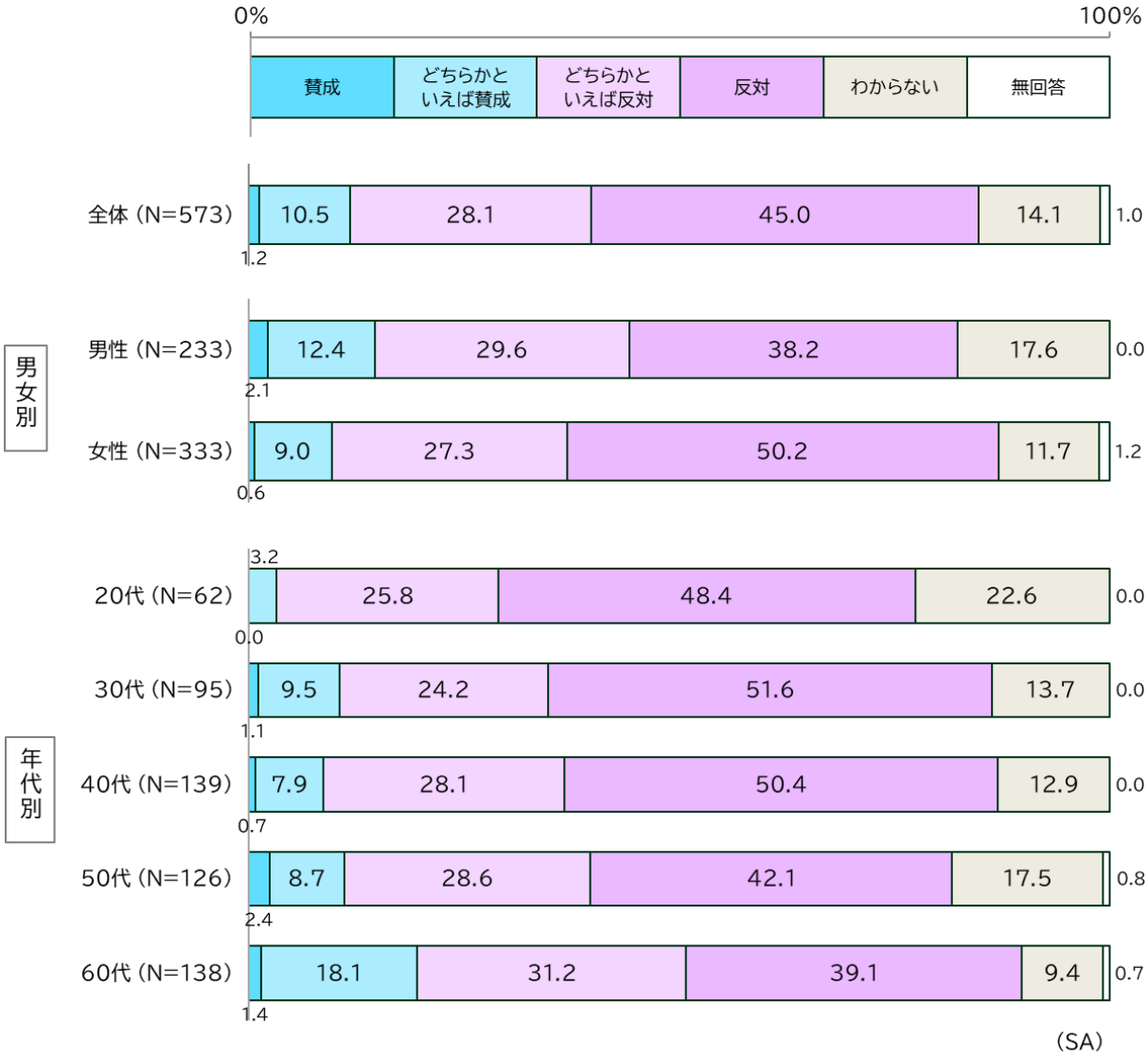


③夫は外で働き、妻は家庭で家事・育児に専念するべきである

反対派が７割以上

反対派（反対、どちらかといえば反対）（73.1%）が、賛成派（賛成、どちらかといえば賛成）（11.7%）を 61.4 ポイント上回っている。

年代別では、20 代から 40 代で、反対派の割合が高い。



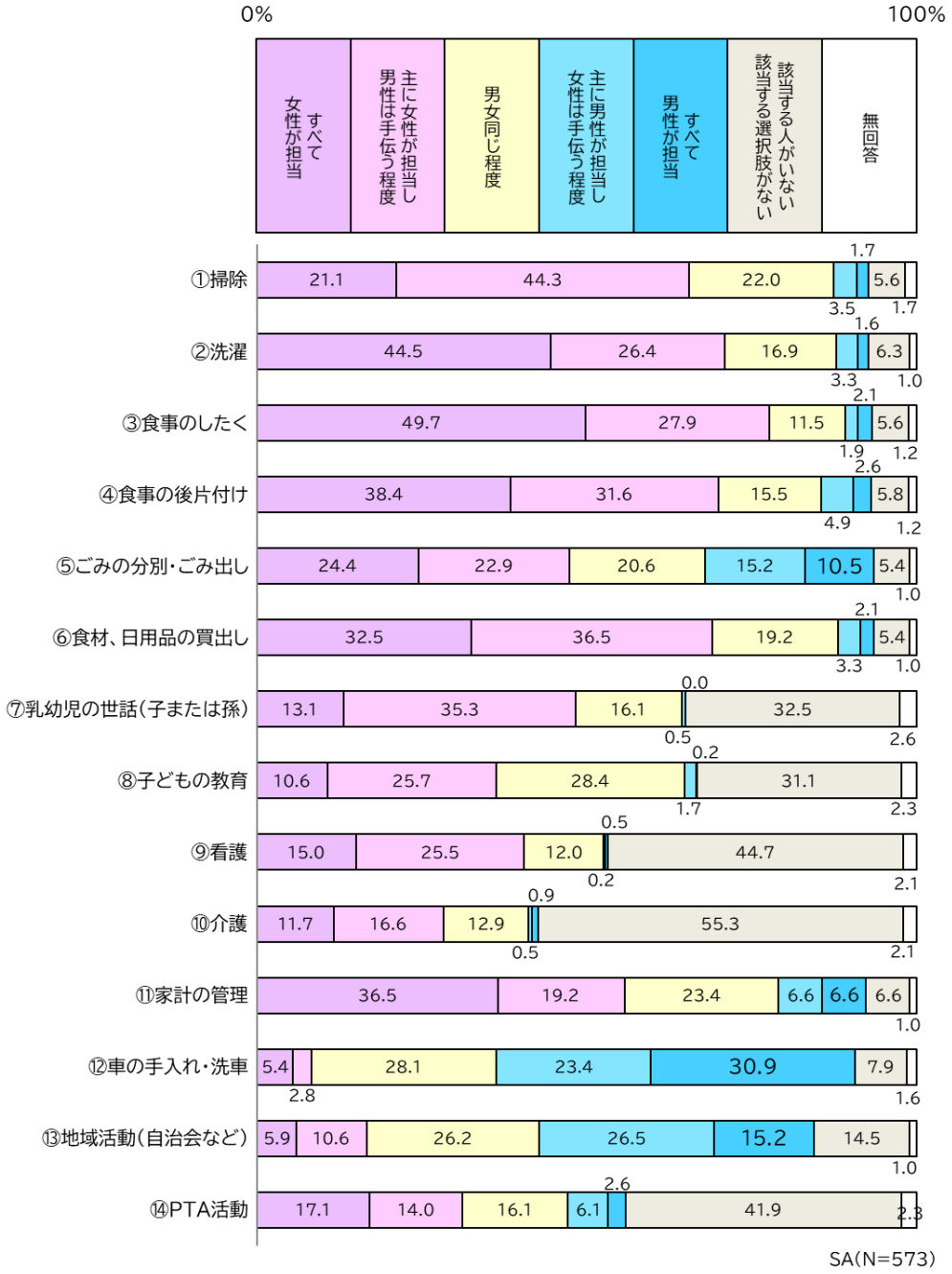
◆ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問８　現在、ご家庭で家事や育児の男女の役割分担はどうなっていますか。
（それぞれ１つ）

女性の方が日常の家事を担当している割合が高い

女性が担当（すべて女性が担当、主に女性が担当し男性は手伝う程度）する項目は「食事のしたく」（77.6%）が最も高く、次いで「洗濯」（70.9%）が高くなっている。

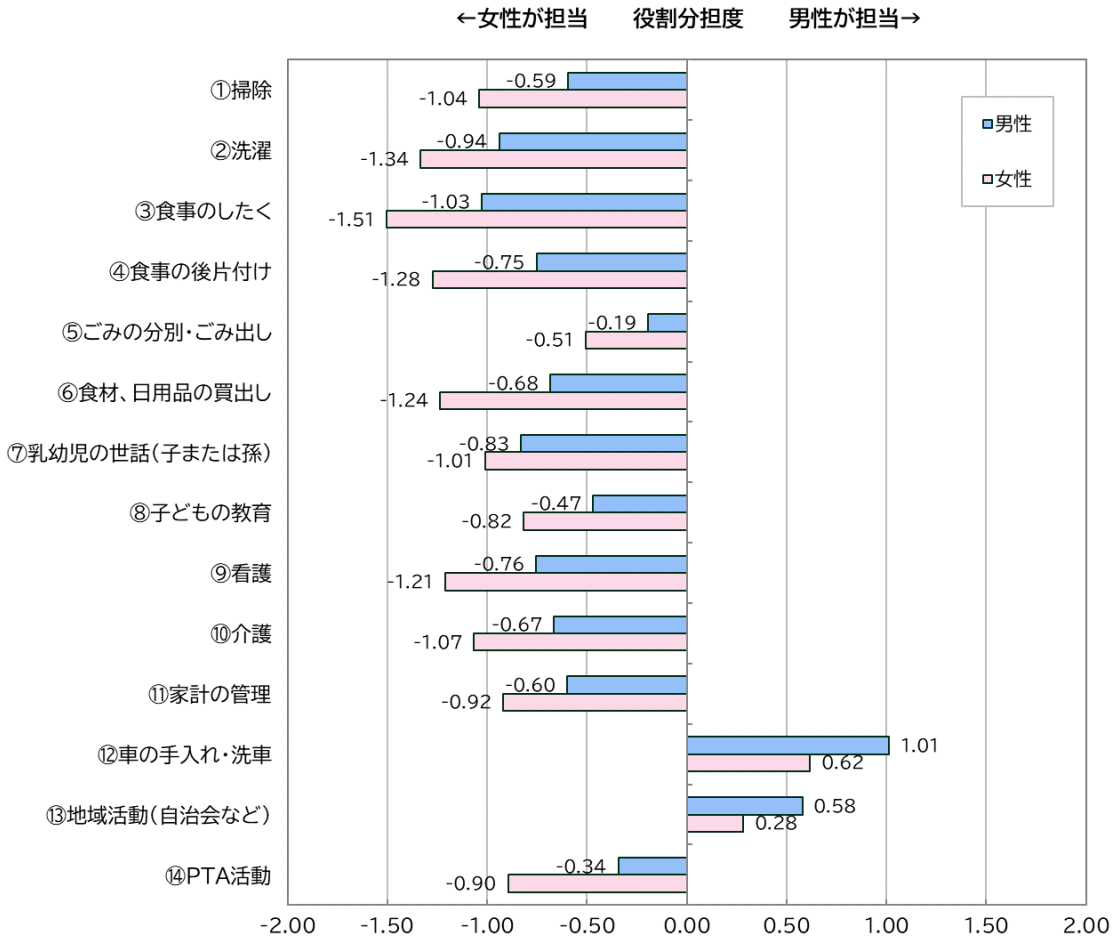
男性が担当（すべて男性が担当、主に男性が担当し女性は手伝う程度）する項目では「車の手入れ・洗車」（54.3%）が最も高く、次いで「地域活動（自治会など）」（41.7%）が高くなっている。



回答項目を下記の表により得点化し、その平均値をグラフ化した結果、性別、年代別で見ても、「女性が担当する」ことが多い項目は、「食事のしたく」、「洗濯」となっている。

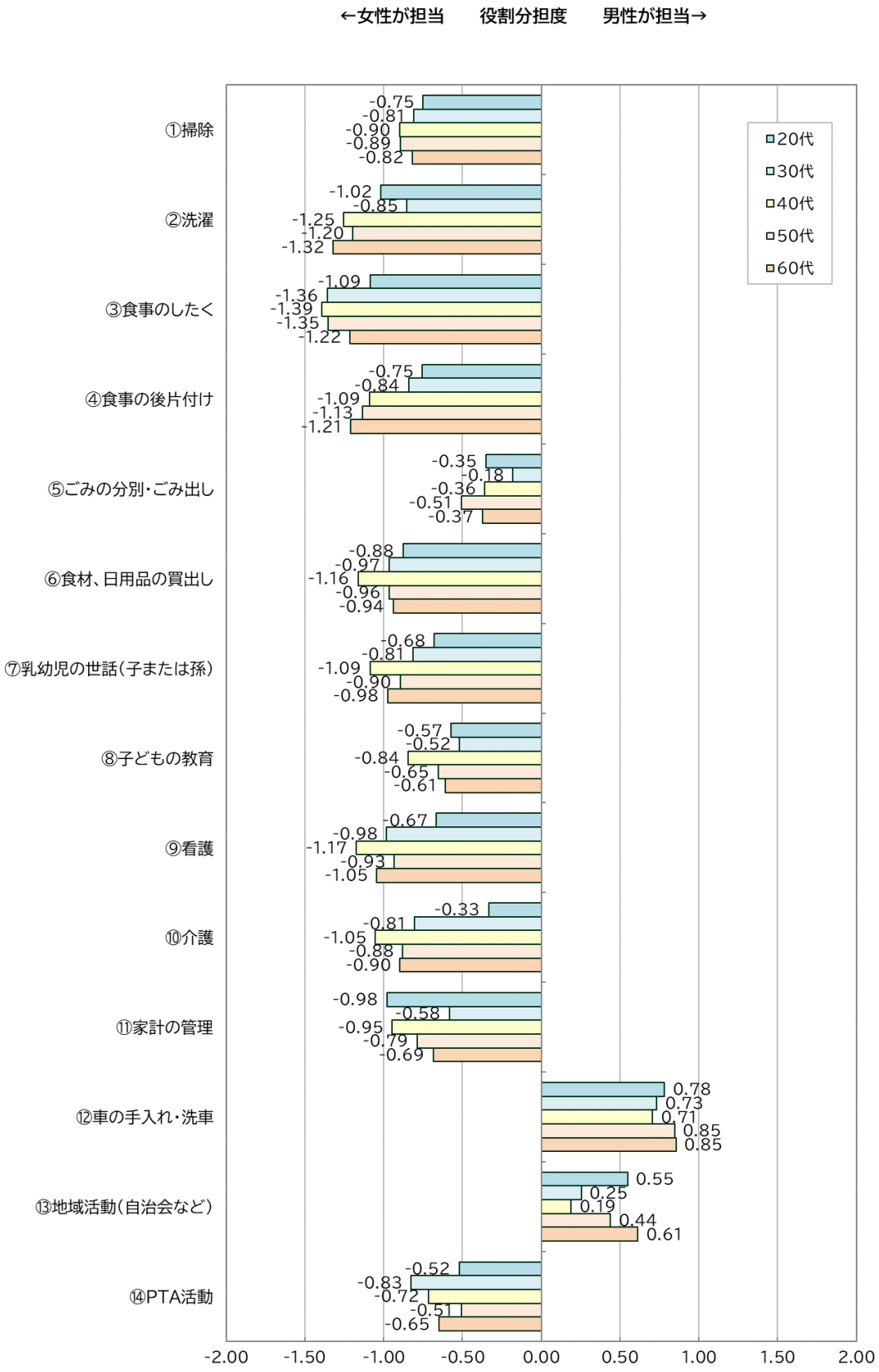
「男性が担当する」ことが多い項目は、「車の手入れ・洗車」、「地域活動（自治会など）」となっている。

すべて女性が担当	主に女性が担当し男性は手伝う程度	男女同じ程度	主に男性が担当し女性は手伝う程度	すべて男性が担当
-2点	-1点	0点	1点	2点



※回答項目を得点化し、その平均値を表したグラフ。
「男性が担当」に数値が表示されていない項目は、「男性が担当」の数値より「女性が担当」の数値が上回っていることを示す。

年代別で見ると、「女性が担当する」項目において、概ね 20 代～30 代の若い世代の数値が、40 代～60 代の数値を下回っている。

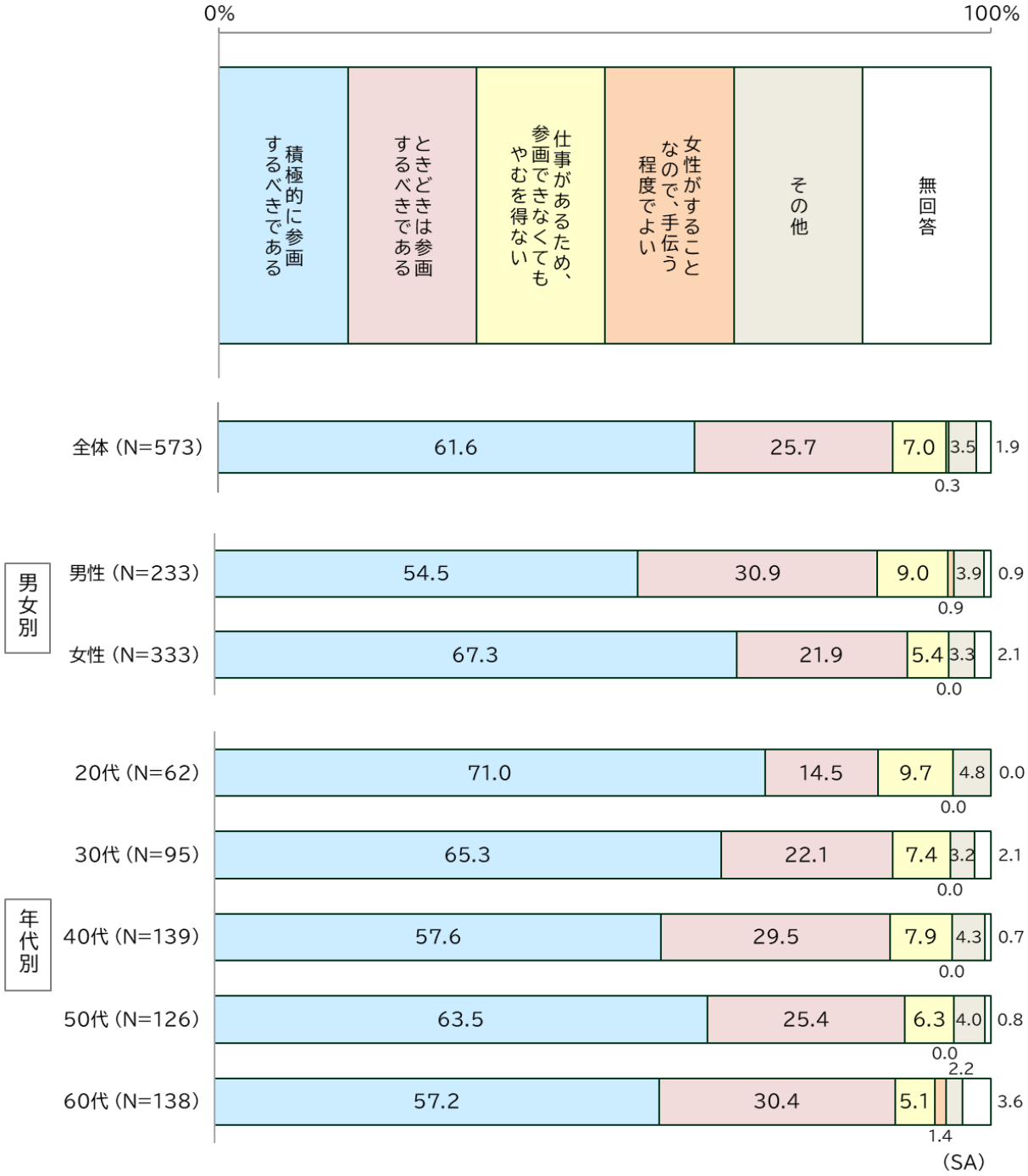


問９　男性の家事・育児・介護への参画についてどうお考えですか。（１つ）

「積極的に参画するべきである」が６割以上

「積極的に参画するべきである」（61.6%）が最も高く、次いで「ときどきは参画するべきである」（25.7%）が高くなっている。

性別では、「積極的に参画するべきである」と考える女性（67.3%）は、男性（54.5%）より 12.8 ポイント高くなっている。

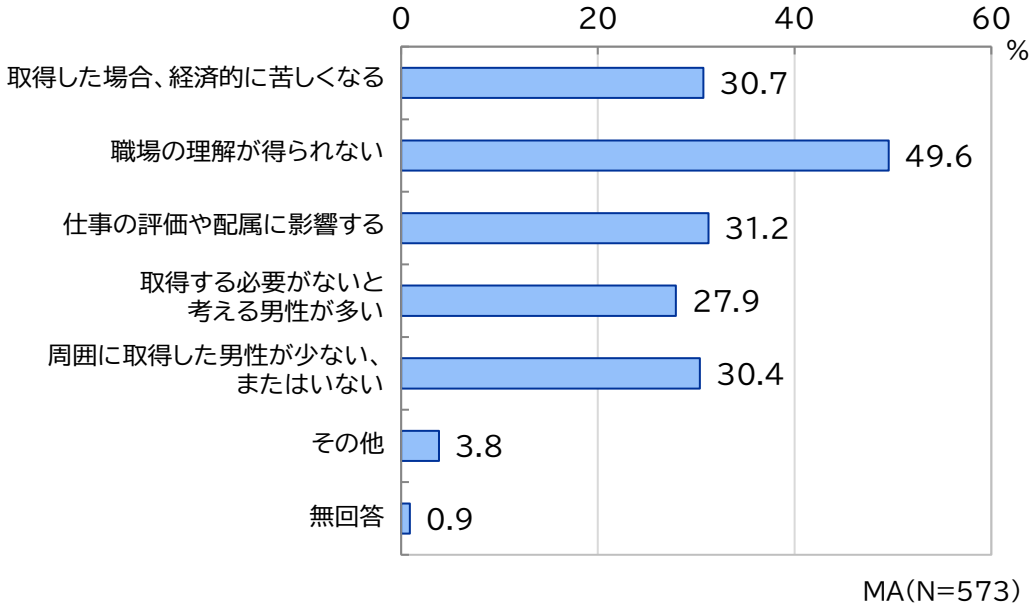


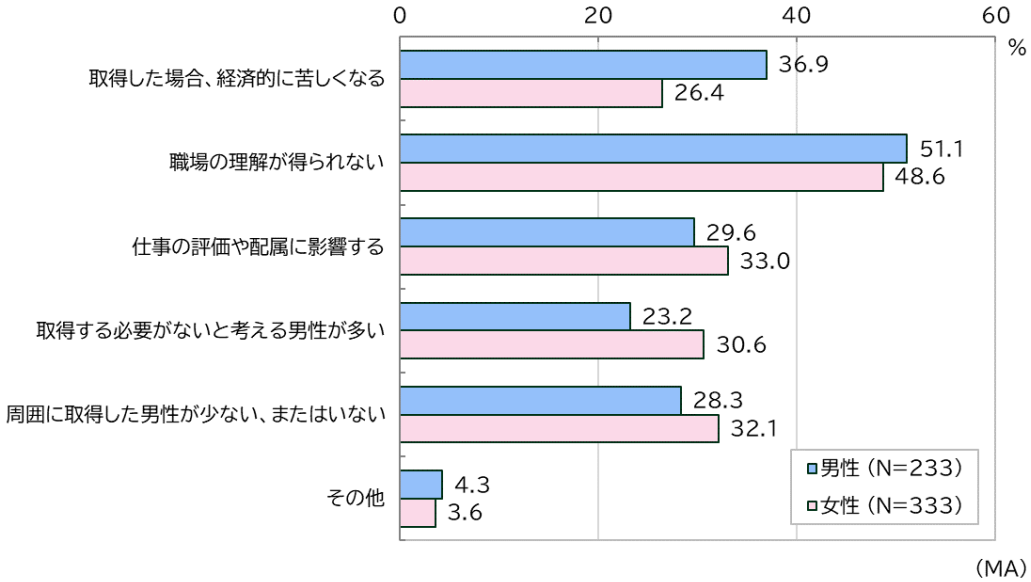
問１０　現在、全国的に見ても、男性の育児・介護休業の取得率は低い状況にありますが、それはなぜだと思いますか。（２つまで）

「職場の理解が得られない」が４割以上

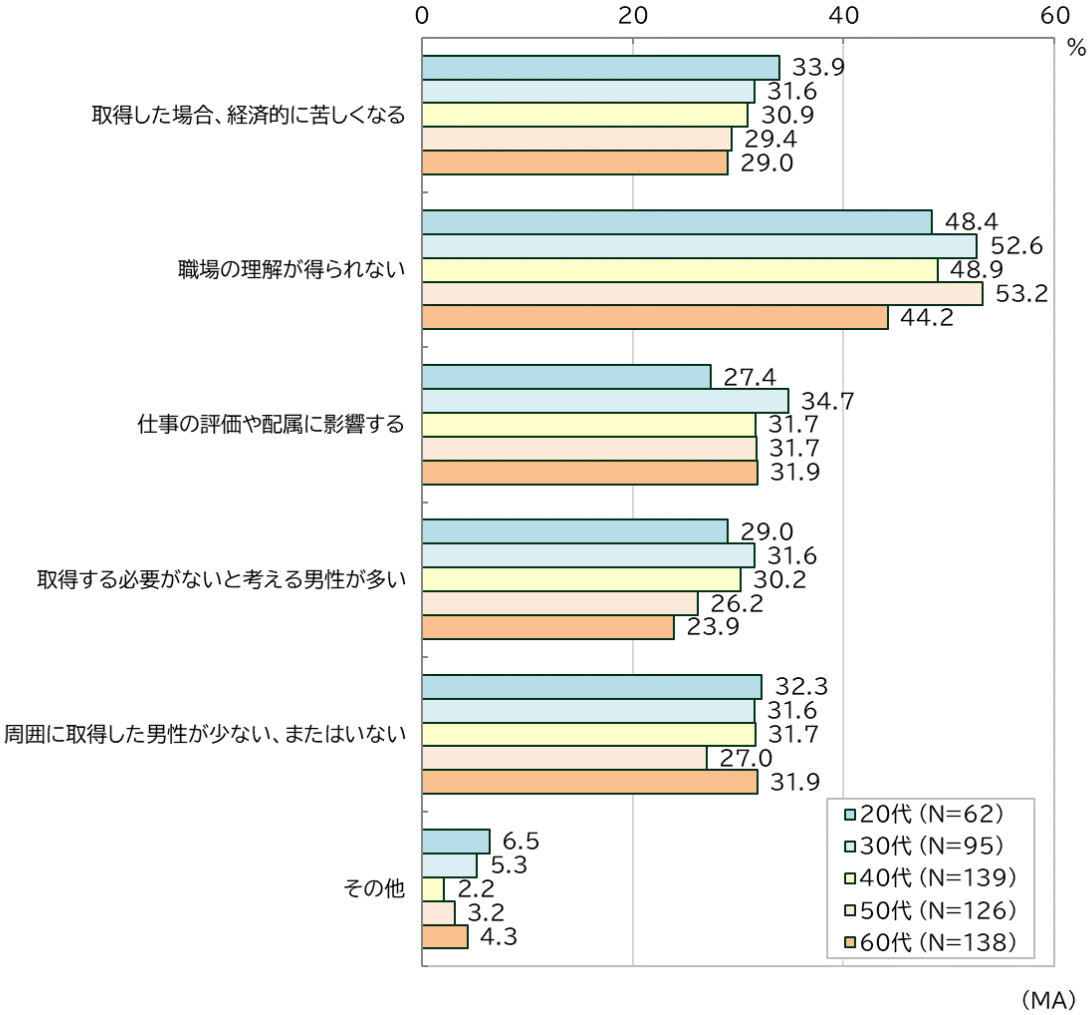
「職場の理解が得られない」（49.6%）が最も高く、次いで「仕事の評価や配属に影響する」（31.2%）が高くなっている。

性別で見ても、「職場の理解が得られない」が男性（51.1%）、女性（48.6%）ともに最も高いが、次いで高い項目は、男性が「取得した場合、経済的に苦しくなる」（36.9%）、女性は「仕事の評価や配属に影響する」（33.0%）となっている。





年代別に見ても、「職場の理解が得られない」がそれぞれで最も高くなっている。



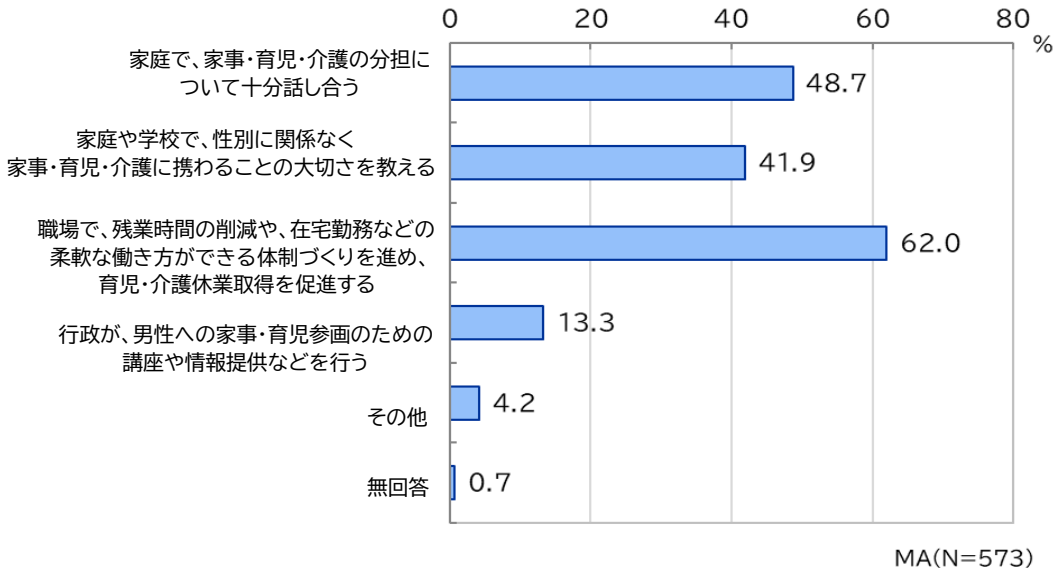
◆男女がともに担う家庭生活づくりについて

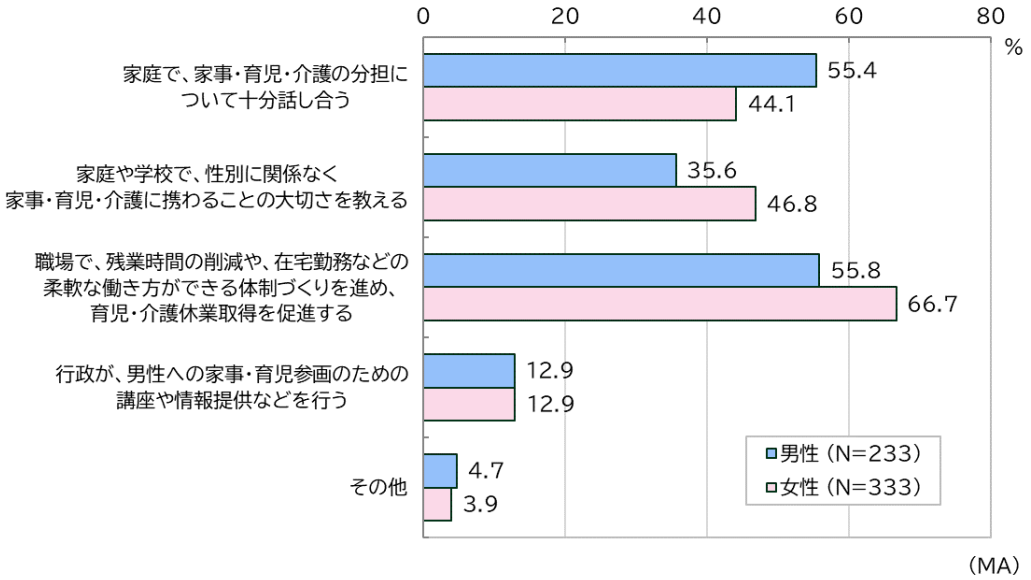
問１１　男女がともに家事・育児・介護に携わるためには、どのようにしたらよいと思いますか。（２つまで）

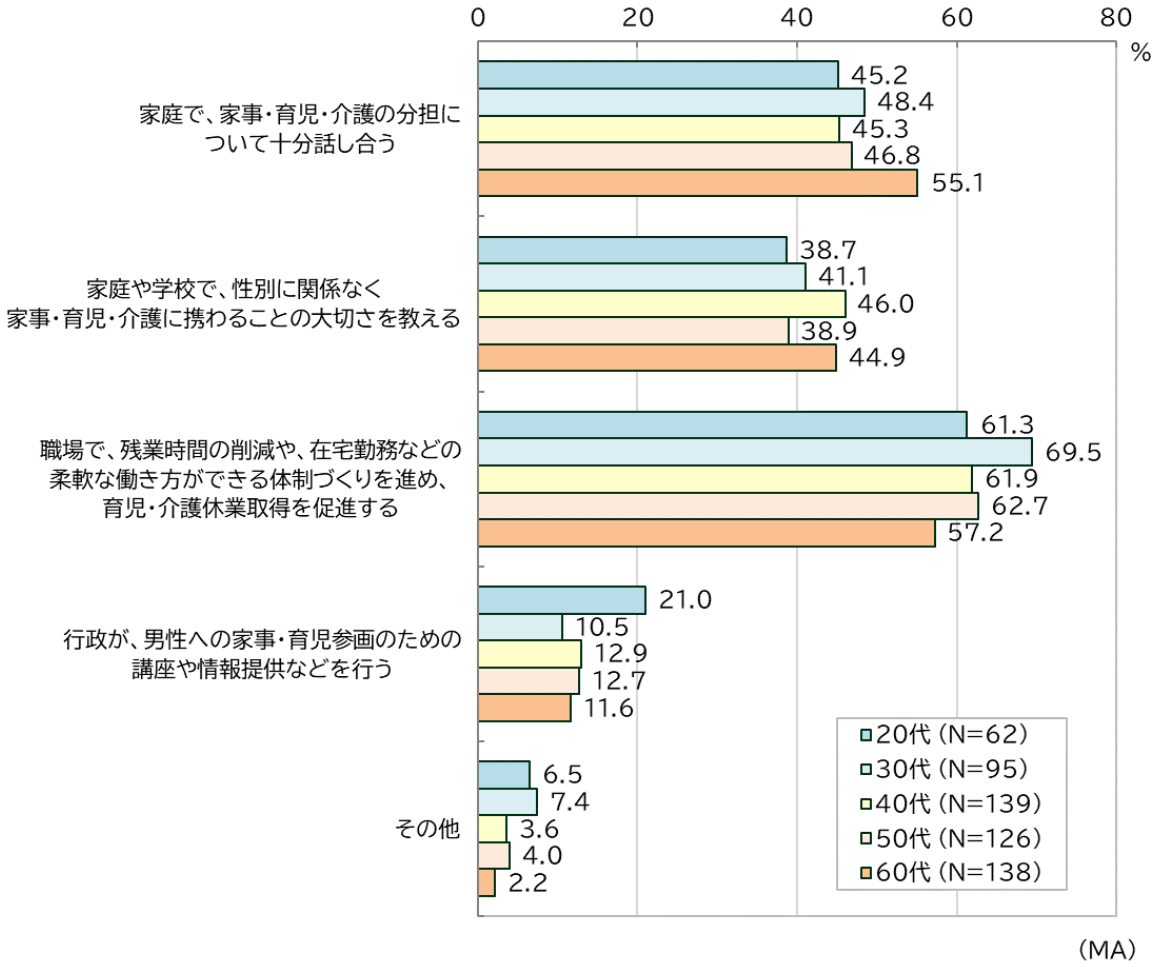
「職場で、残業時間の削減や、在宅勤務などの柔軟な働き方ができる体制づくりを進め、育児・介護休業取得を促進する」が６割以上

「職場で、残業時間の削減や、在宅勤務などの柔軟な働き方ができる体制づくりを進め、育児・介護休業取得を促進する」（62.0%）が最も高く、次いで「家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う」（48.7%）が高くなっている。

性別、年代別に見ても、「職場で、残業時間の削減や、在宅勤務などの柔軟な働き方ができる体制づくりを進め、育児・介護休業取得を促進する」が最も高くなっている。






0
20
40
60
80
%
家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う
45.2
48.4
45.3
46.8
55.1
家庭や学校で、性別に関係なく家事・育児・介護に携わることの大切さを教える
38.7
41.1
46.0
38.9
44.9
職場で、残業時間の削減や、在宅勤務などの柔軟な働き方ができる体制づくりを進め、育児・介護休業取得を促進する
61.3
69.5
61.9
62.7
57.2
行政が、男性への家事・育児参画のための講座や情報提供などを行う
21.0
10.5
12.9
12.7
11.6
その他
6.5
7.4
3.6
4.0
2.2
20代（N=62）
30代（N=95）
40代（N=139）
50代（N=126）
60代（N=138）
（MA）

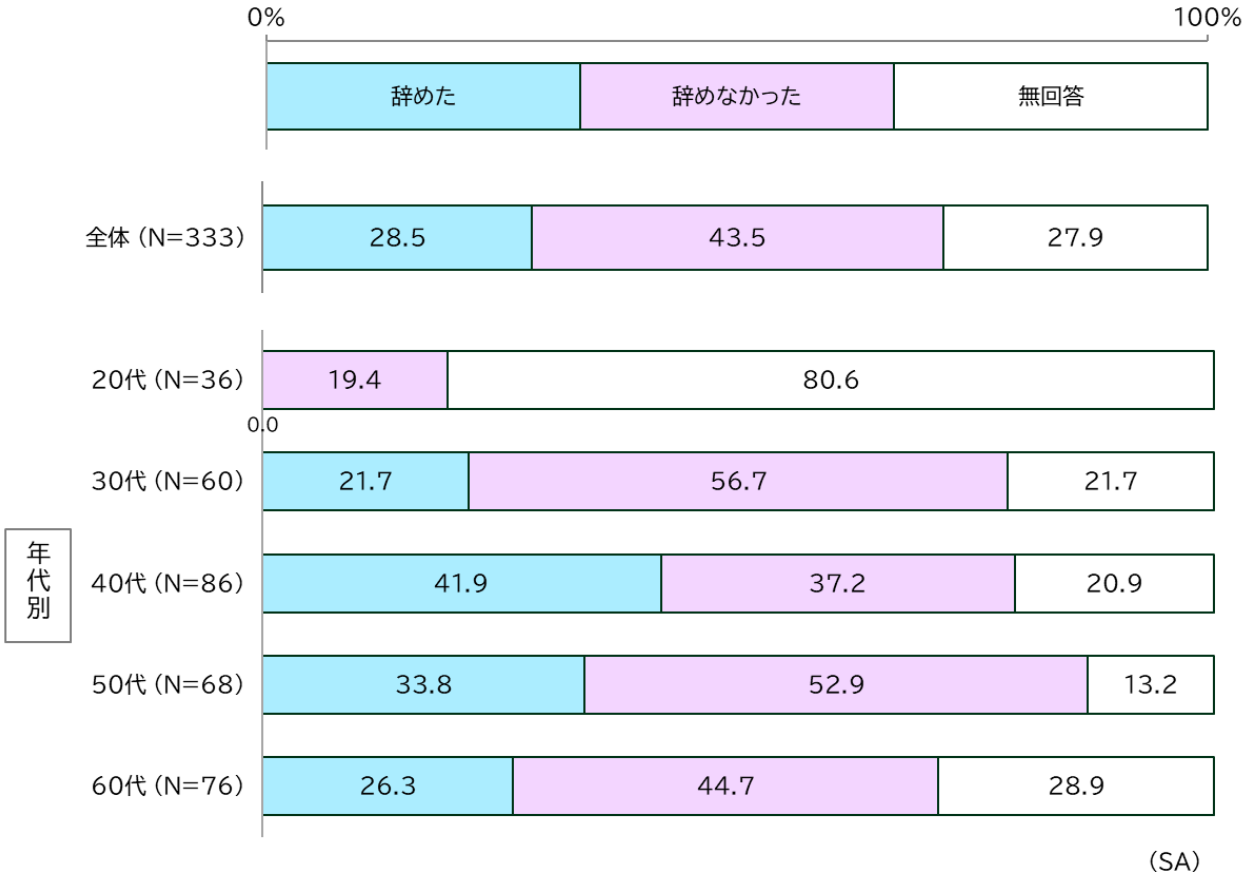
◆男女とも活躍できる職場環境の推進について

【出産をされた方にお聞きします。】
問１２（１）　出産後（産後及び育児休業取得後含む）に仕事を辞めましたか。
また辞めた場合の理由は。（１つ）

「辞めなかった」が４割以上

「辞めなかった」（43.5%）が「辞めた」（28.5%）より 15 ポイント高くなっている。

年代別では、30 代、50 代の 5 割以上が「辞めなかった」と回答している。「辞めた」は、40 代（41.9%）が他の年代より高い。その理由としては、「育児に協力してくれる人が周りにいない」、「子どもを見てくれる人がいない」等の回答があった。



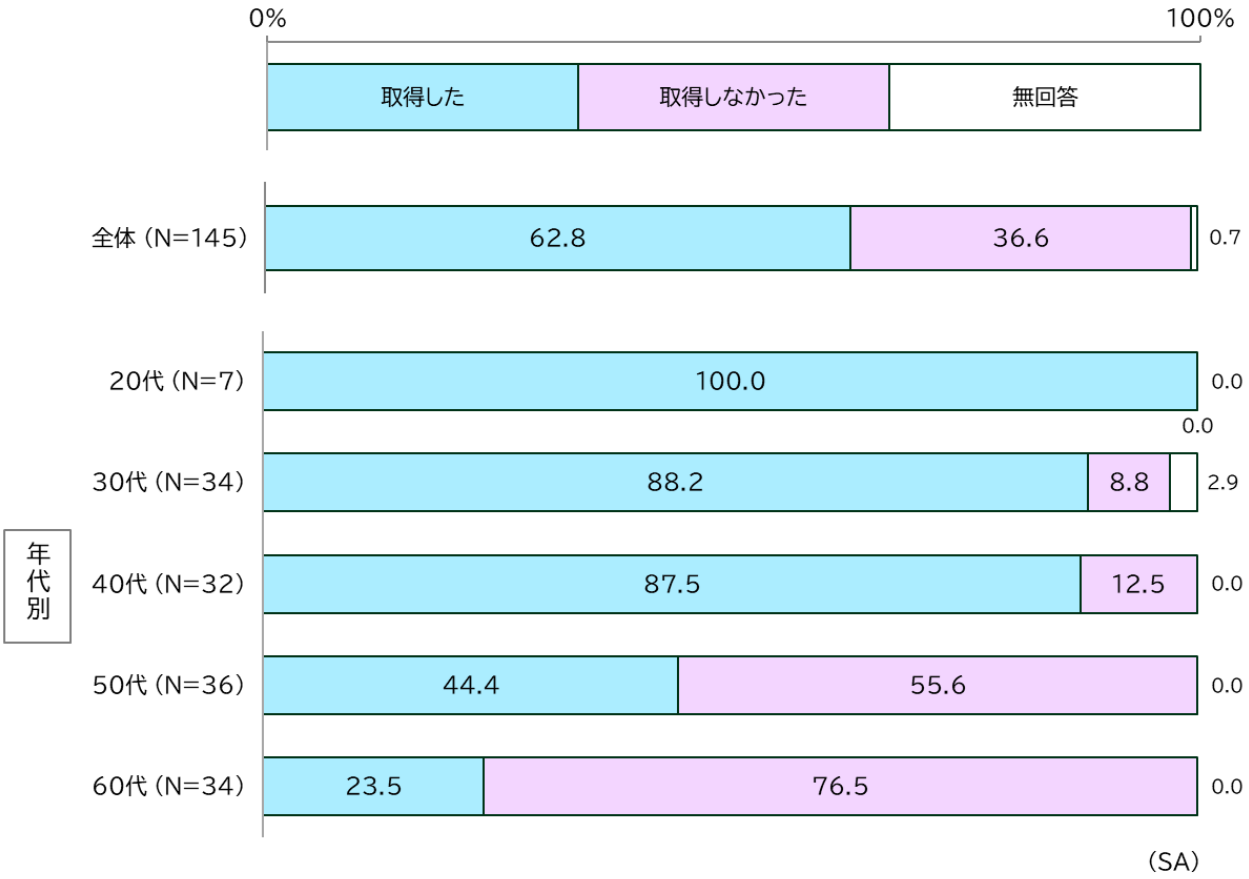
【（１）で「辞めなかった」に〇を付けた方に質問します。】
問１２（２）　育児休業を取得しましたか。また取得しなかった場合の理由は。（１つ）

「取得した」が６割以上

「取得した」（62.8%）が「取得しなかった」（36.6%）より 26.2 ポイント高くなっている。

年代別に見ると、若い世代になるほど取得した割合が高い。

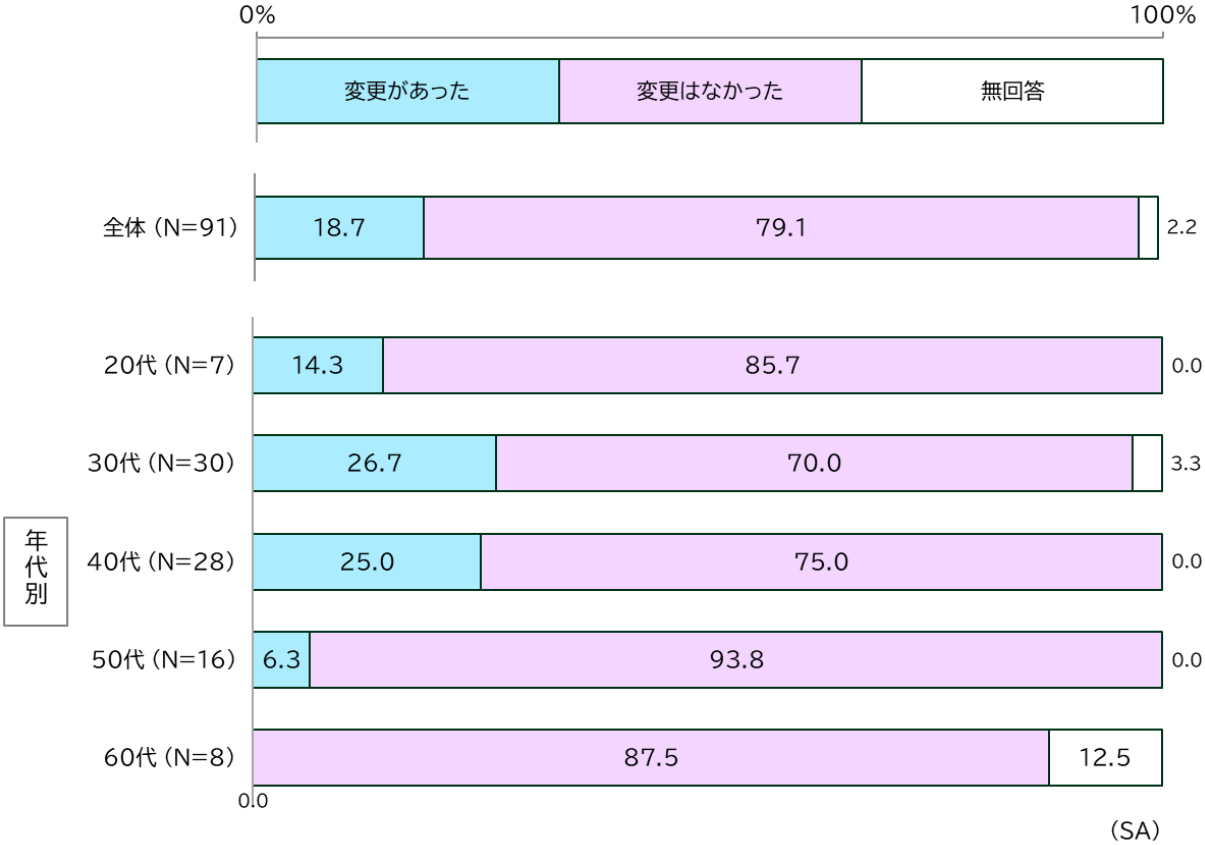
「取得しなかった」割合が高い 50 代（55.6%）、60 代（76.5%）の理由としては、「職場で育児休業を取得できる環境がなかった」、「自分の母親に子どもの世話をお願いできた」等の回答があった。



【（２）で「取得した」に〇を付けた人に質問します。】
問１２（３）　復帰後の部署は、育児休業取得前の部署から変更がありましたか。また変更があった場合の理由は。（１つ）

「変更があった」は２割未満

「変更があった」は 18.7%、「変更はなかった」は 79.1%となっている。
年代別に見ると、「変更があった」は 30 代、40 代で割合が高くなっている。

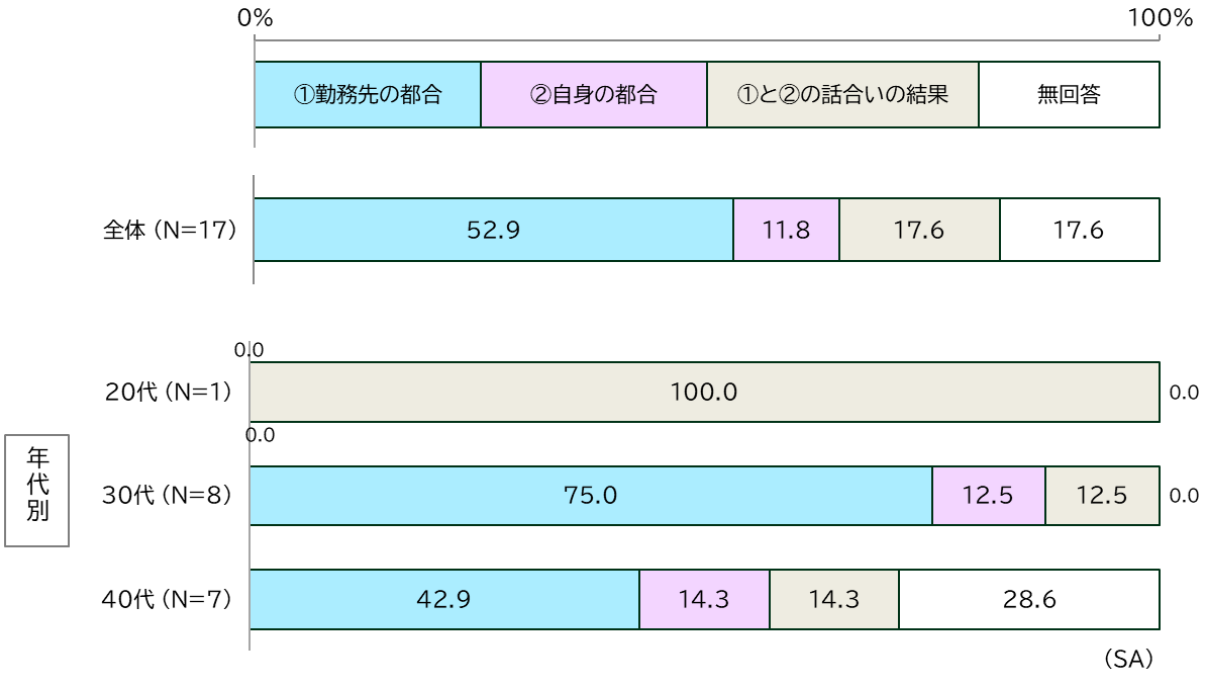


変更があった場合の理由は「勤務先の都合」が５割以上

「勤務先の都合」(52.9%) が最も高く、「勤務先と自身の話合いの結果」は17.6%、「自身の都合」は 11.8%となっている。

年代別では、「勤務先の都合」は 30 代（75.0%）が最も高い。

なお、50 代はすべて無回答となっている。

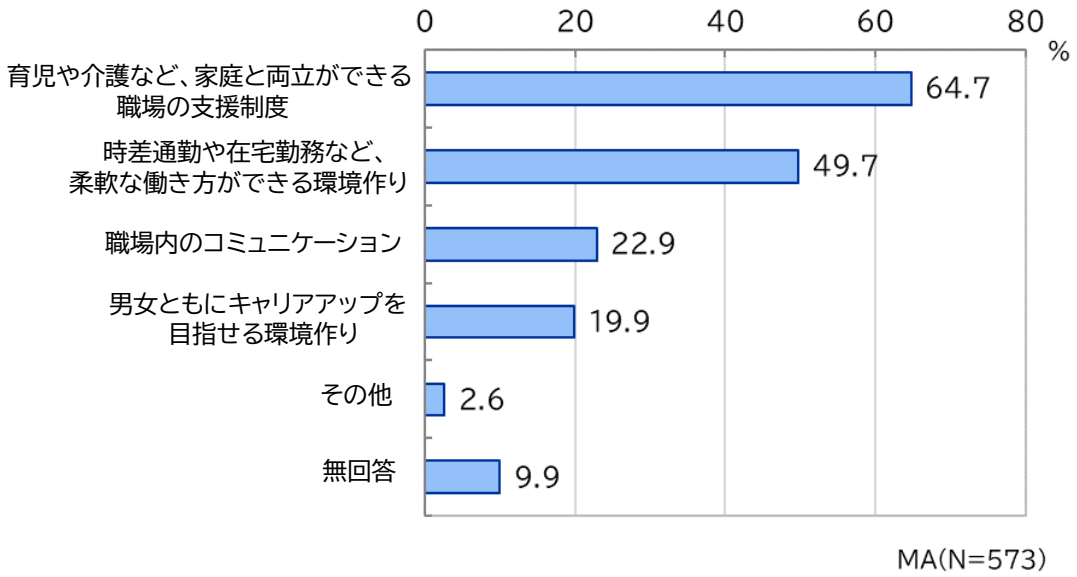


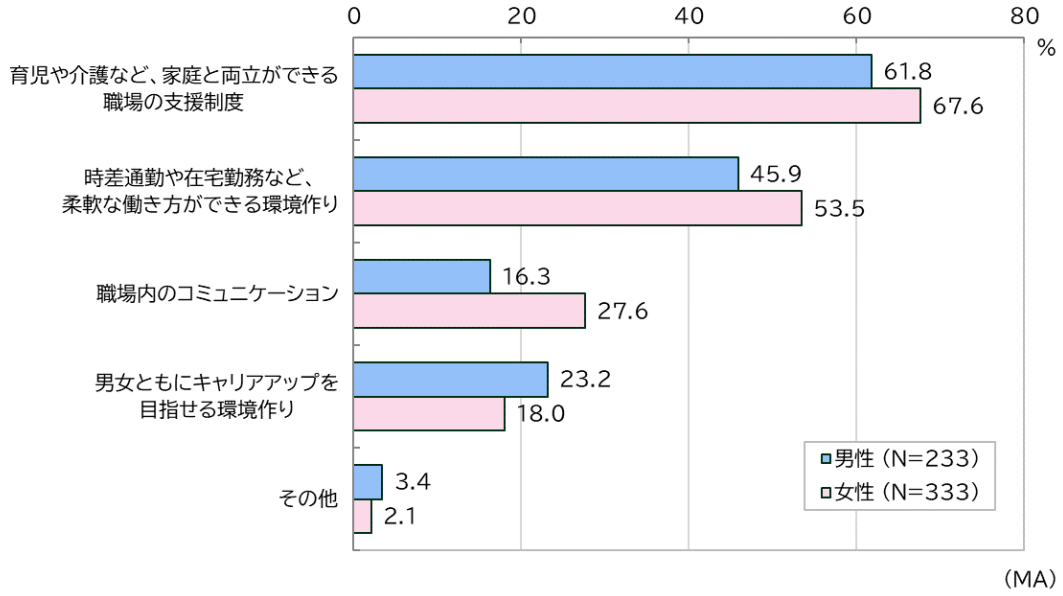
問１３　男女がともに活躍できる職場にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（２つまで）

「育児や介護など、家庭と両立ができる職場の支援制度」が６割以上

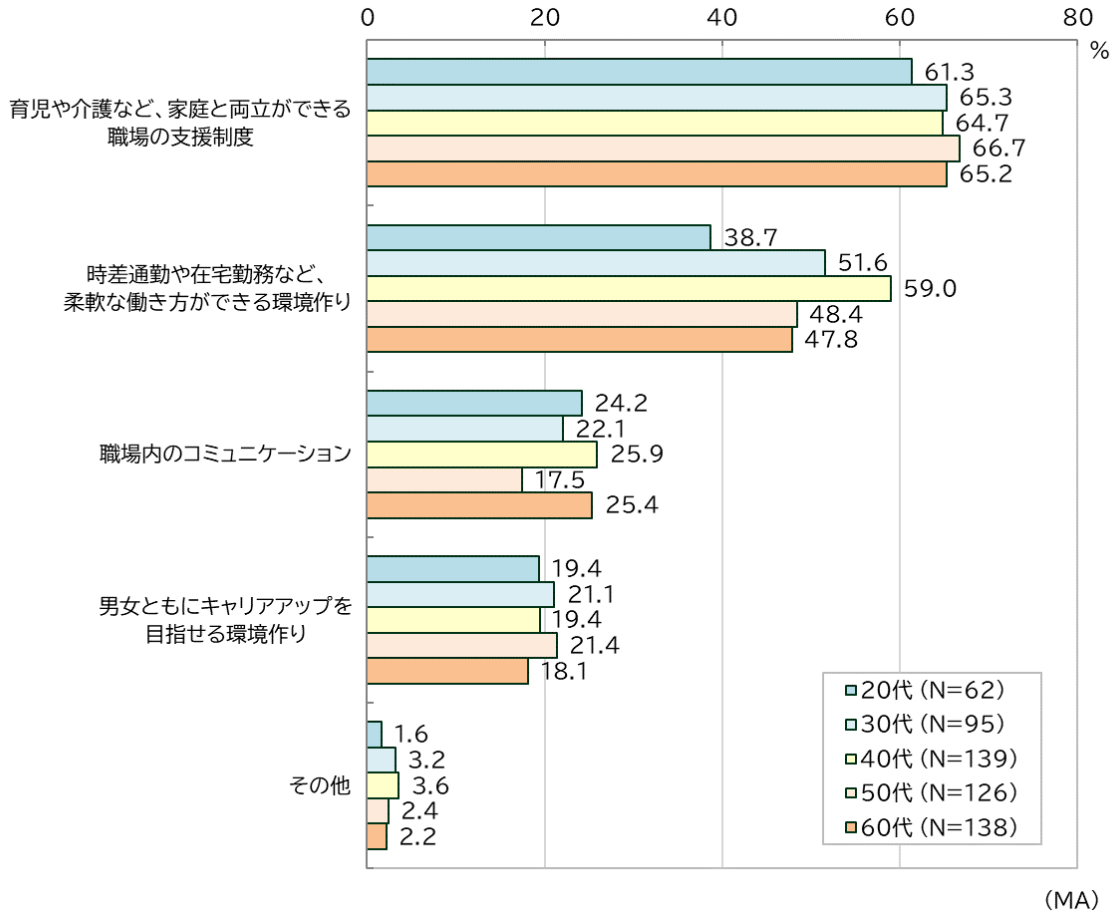
「育児や介護など、家庭と両立ができる職場の支援制度」（64.7%）が最も高く、次いで、「時差通勤や在宅勤務など、柔軟な働き方ができる環境作り」（49.7%）が高くなっている。

性別で見ても、同様の順位となっている。





年代別で見ると、「時差通勤や在宅勤務など、柔軟な働き方ができる環境作り」は、40 代（59.0%）が最も高くなっている。



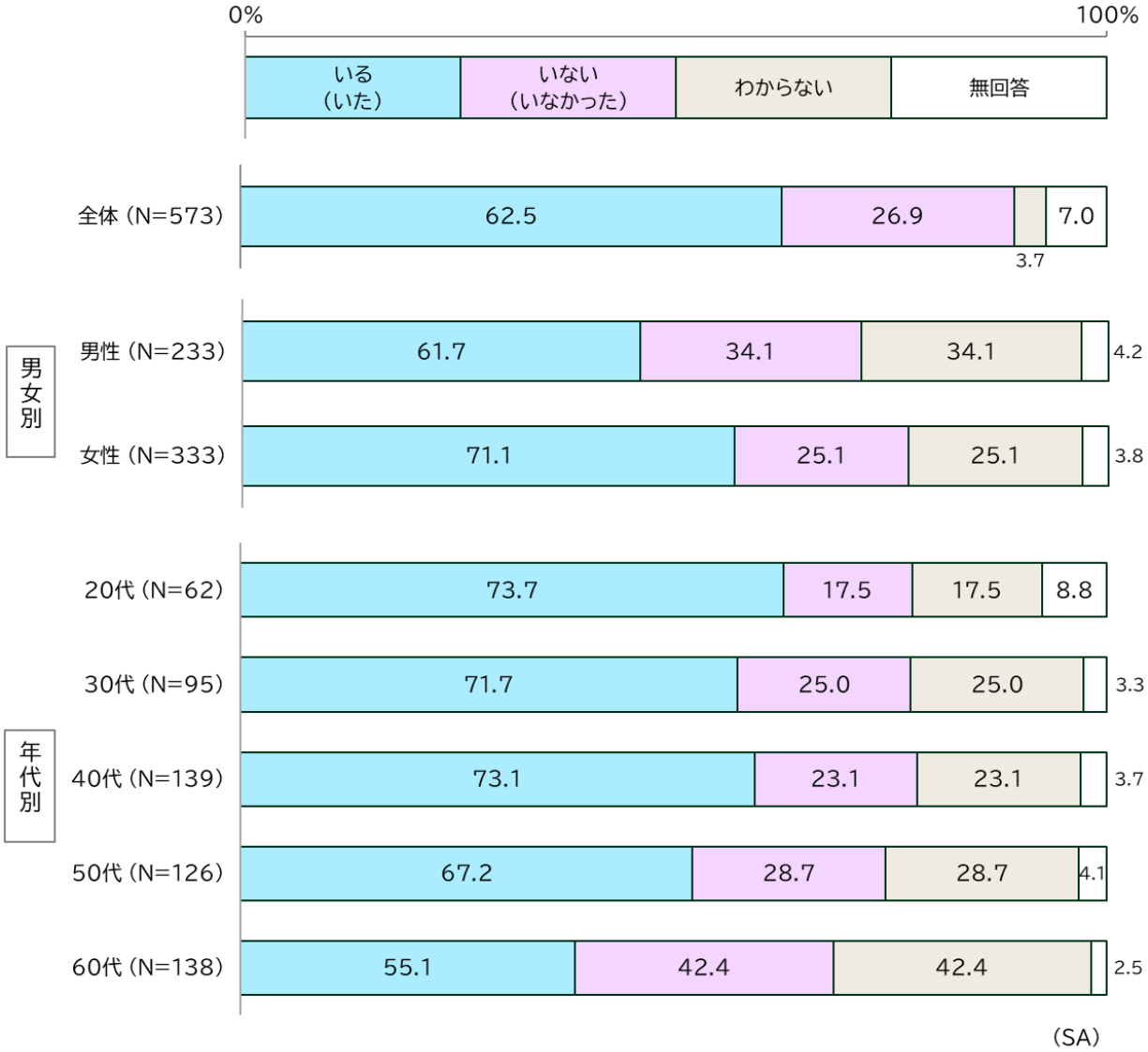
◆政策・方針決定過程への女性参画について

【働いている方にお聞きします。】働いた経験のある方もお答えください。
問１４　職場に女性の管理職がいます（いました）か。（１つ）

「女性管理職がいる（いた）」が６割以上

「女性管理職がいる（いた）」(62.5%) が、「いない（いなかった）」(26.9%) より 35.6 ポイント高くなっている。

年代別では、20 代～40 代で「女性管理職がいる（いた）」割合が 7 割以上となっている。



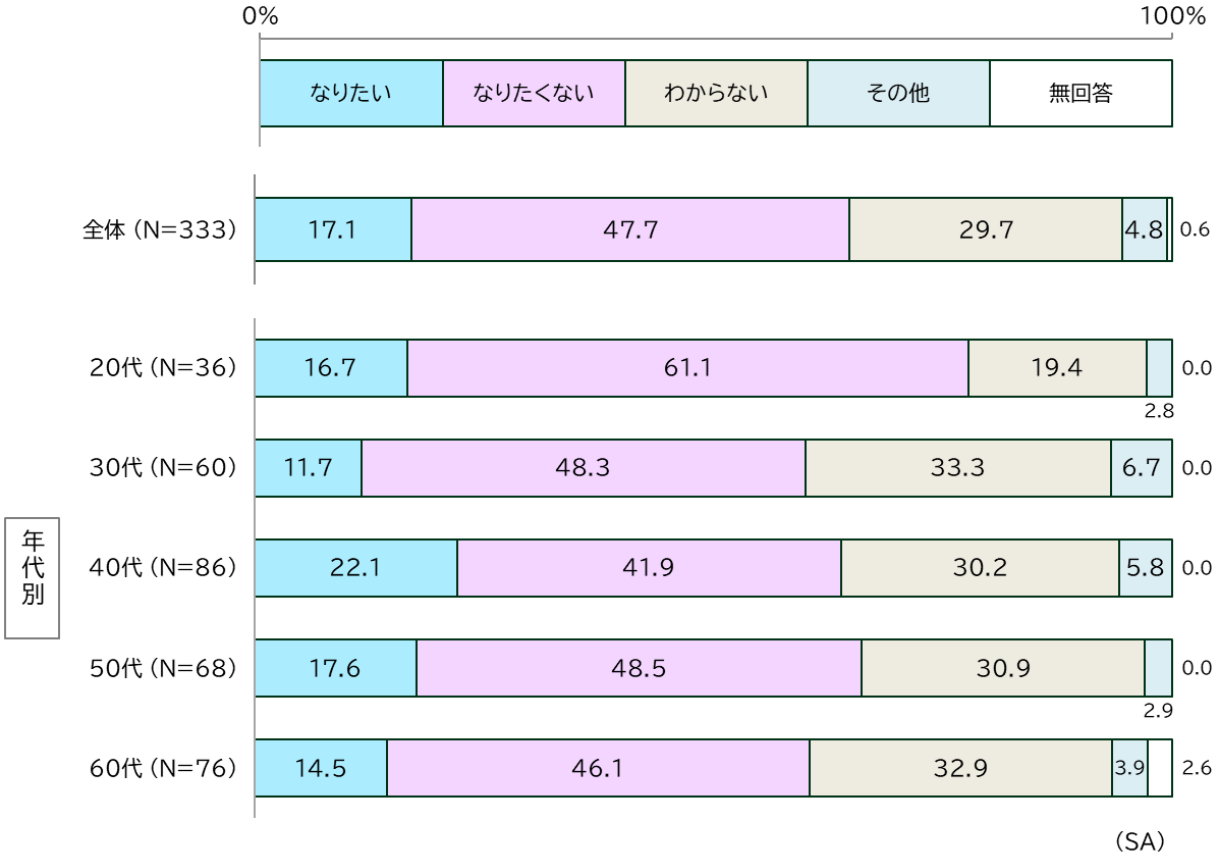
【女性にお聞きします。】働いた経験のある方もお答えください。
問１５（１）　管理職になることについて、どう思いますか。（１つ）

「管理職になりたくない」は４割以上

「管理職になりたくない」（47.7%）が、「なりたい」（17.1%）より 30.6 ポイント高くなっている。

年代別では、全ての年代で「なりたくない」が「なりたい」より高くなっている。

一方、「なりたい」は、40 代（22.1%）のみ 2 割を超えている。

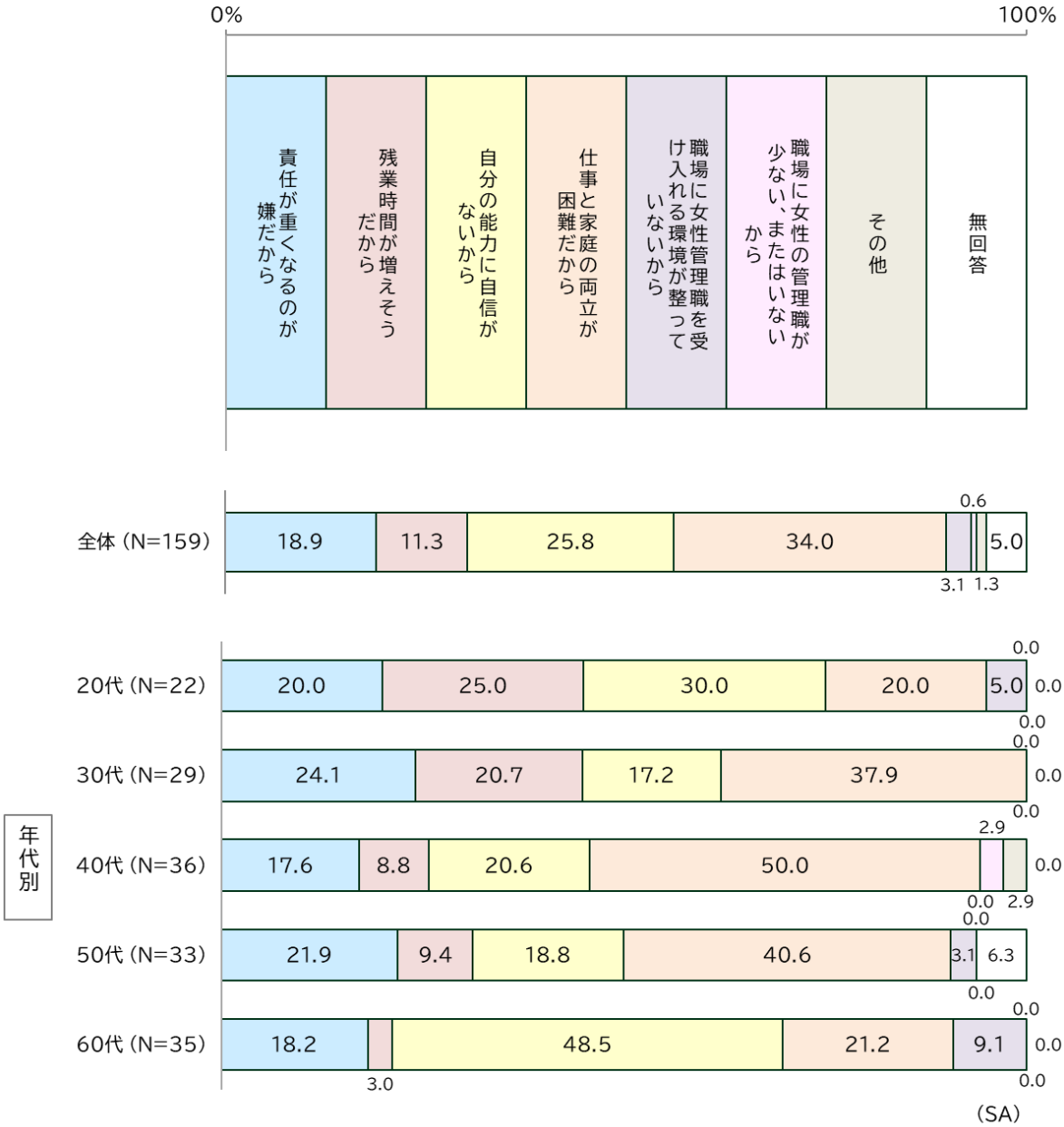


【（１）で「なりたくない」に〇をつけた方にお聞きします。】
問１５（２）　それは、どのような理由からですか。（１つ）

「仕事と家庭の両立が困難だから」が３割以上

「仕事と家庭の両立が困難だから」（34.0%）が最も高く、次いで「自分の能力に自信がないから」（25.8%）が高くなっている。

年代別では、30 代～50 代で「仕事と家庭の両立が困難だから」が最も高くなっている。



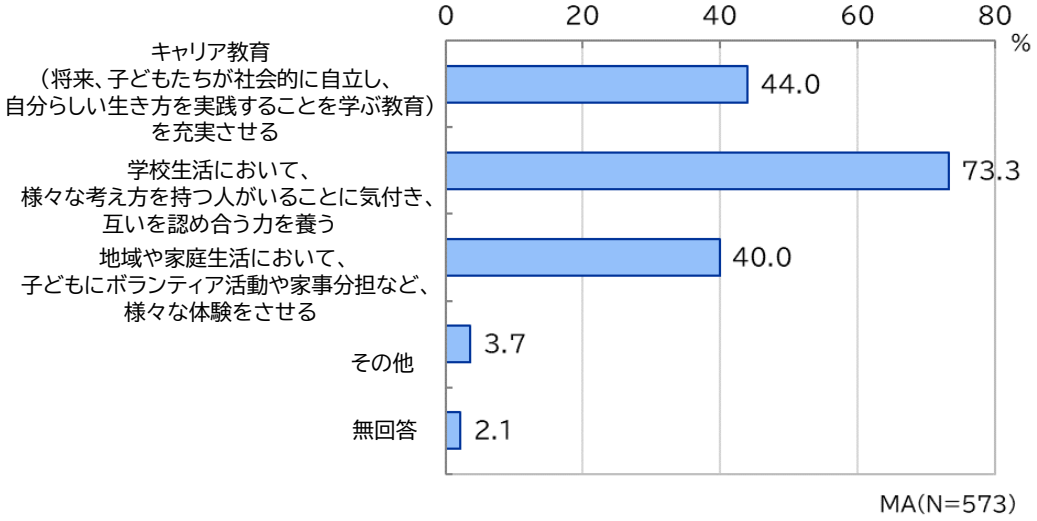
◆個性や能力を生かす学校教育の推進について

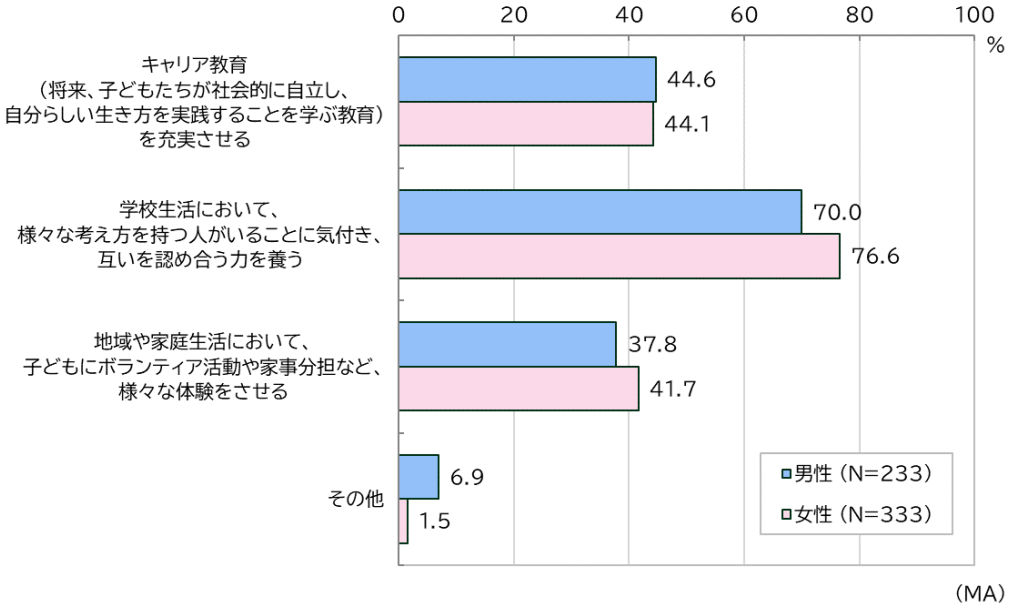
問１６　学校教育において、性別に関係なく個性や能力を生かしていくために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（２つまで）

「学校生活において、様々な考え方を持つ人がいることに気付き、互いを認め合う力を養う」が７割以上

「学校生活において、様々な考え方を持つ人がいることに気付き、互いを認め合う力を養う」（73.3%）が最も高く、次いで「キャリア教育（将来、子どもたちが社会的に自立し、自分らしい生き方を実践することを学ぶ教育）を充実させる」（44.0%）が高くなっている。

性別で見ても、「学校生活において、様々な考え方を持つ人がいることに気付き、互いを認め合う力を養う」が最も高くなっている。





◆男女がともに担う地域社会づくりについて

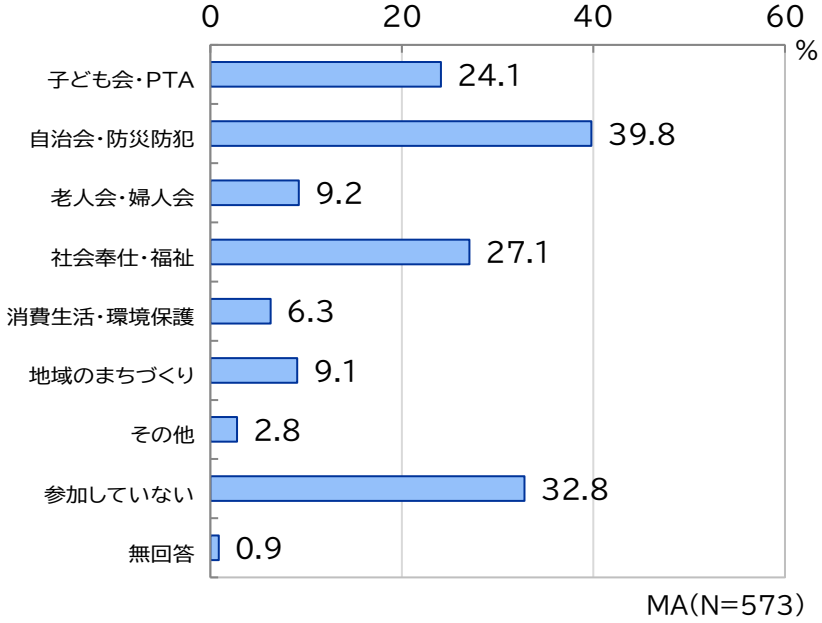
問１７（１）　地域活動・社会活動の参加について、あなたが参加しているものに○をつけてください。（全て）

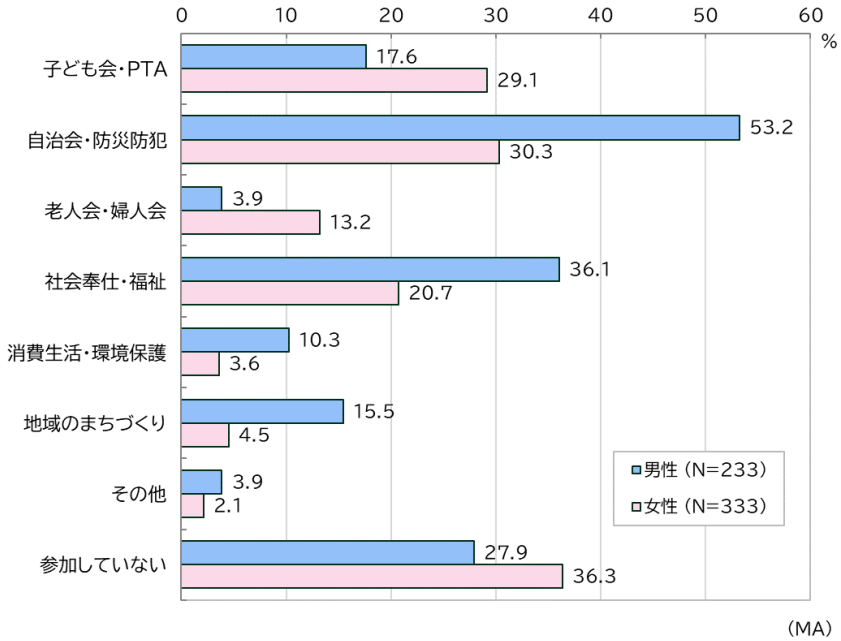
「自治会・防災防犯」が約４割

参加している活動は、「自治会・防災防犯」(39.8%) が最も高く、次いで「社会福祉・奉仕」(27.1%) が高くなっている。

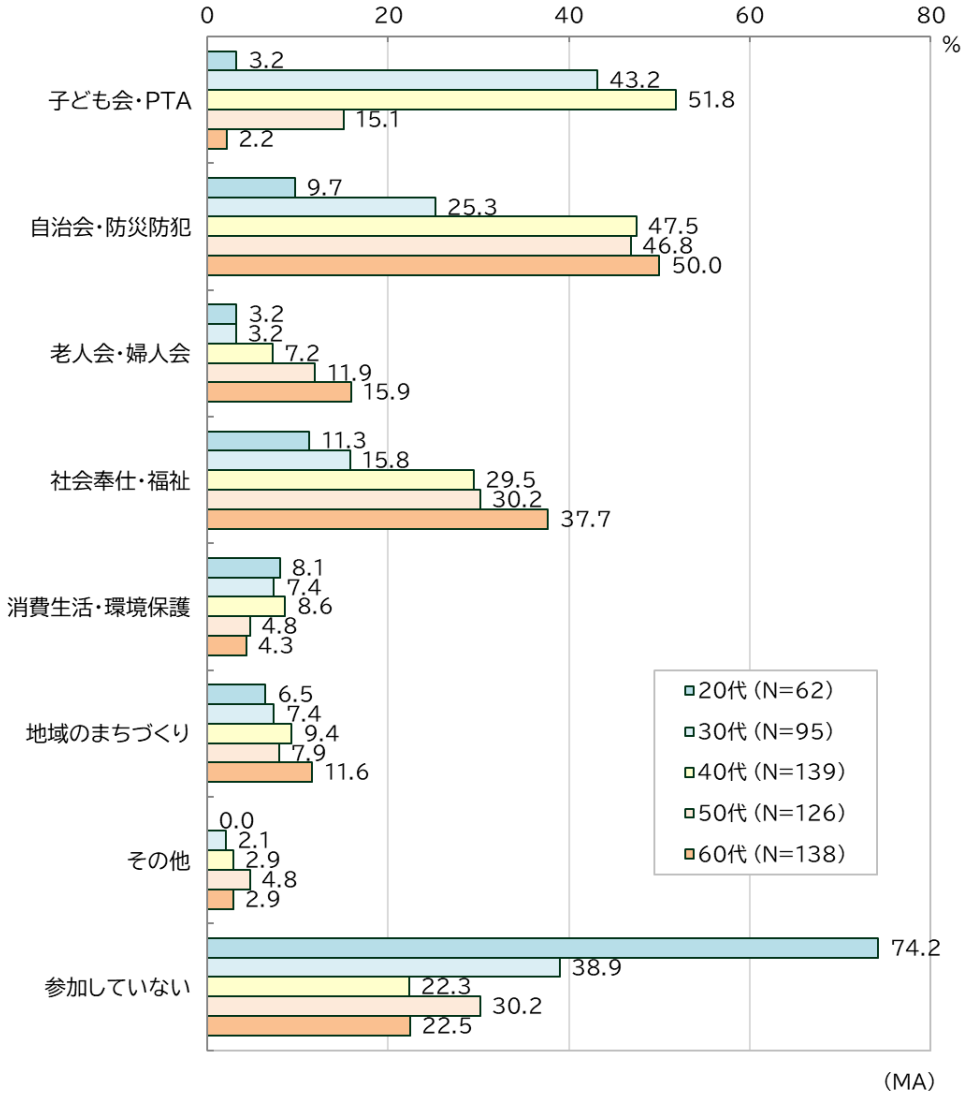
「参加していない」は 32.8%となっている。

性別で見ても、参加している活動は「自治会・防災防犯」が最も高くなっている。「参加していない」は、女性（36.3%）が男性（27.9%）よりも 8.4 ポイント高くなっている。





年代別に見ると、20 代、30 代の若い世代で「参加していない」割合が高く、年代が上がるほど「自治会・防災防犯」の割合が高くなっている。



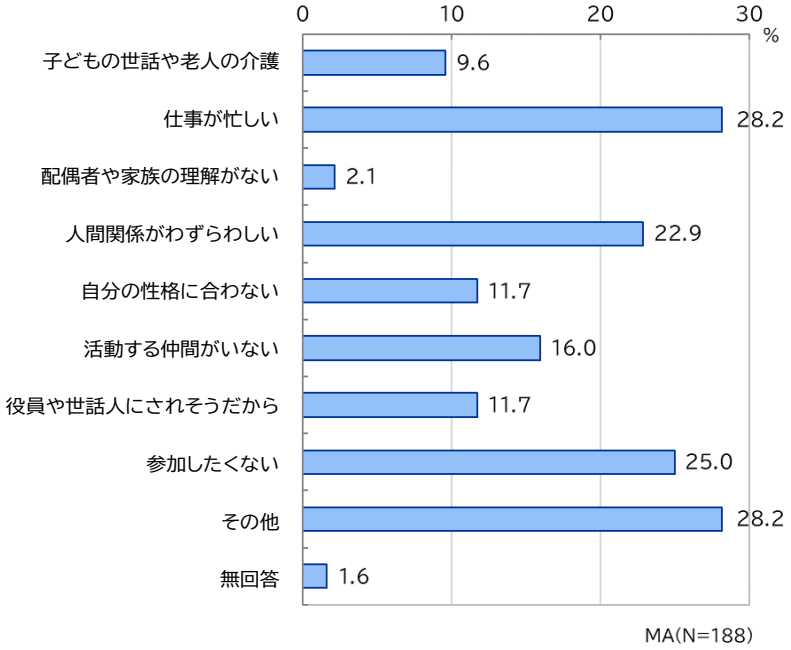
【（１）で「参加していない」に〇をつけた方にお聞きします。】
問１７（２）　地域活動・社会活動へ参加していない理由は何ですか。
（３つまで）

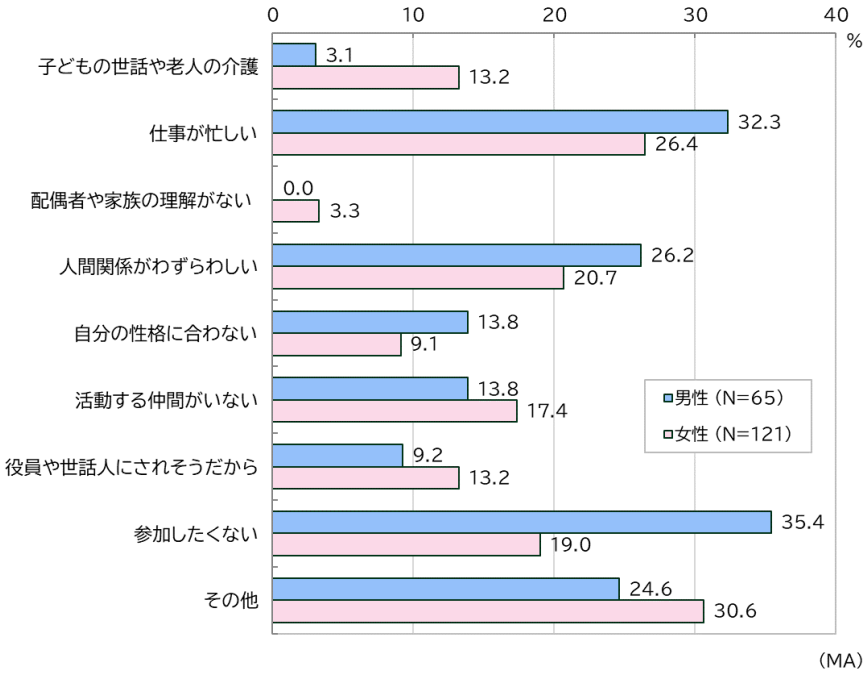
「仕事が忙しい」が２割以上

「仕事が忙しい」(28.2%) が最も高く、次いで「参加したくない」(25.0%) が高くなっている。

性別では、男性が「参加したくない」(35.4%)、女性は「仕事が忙しい」(26.4%) が最も高くなっている。

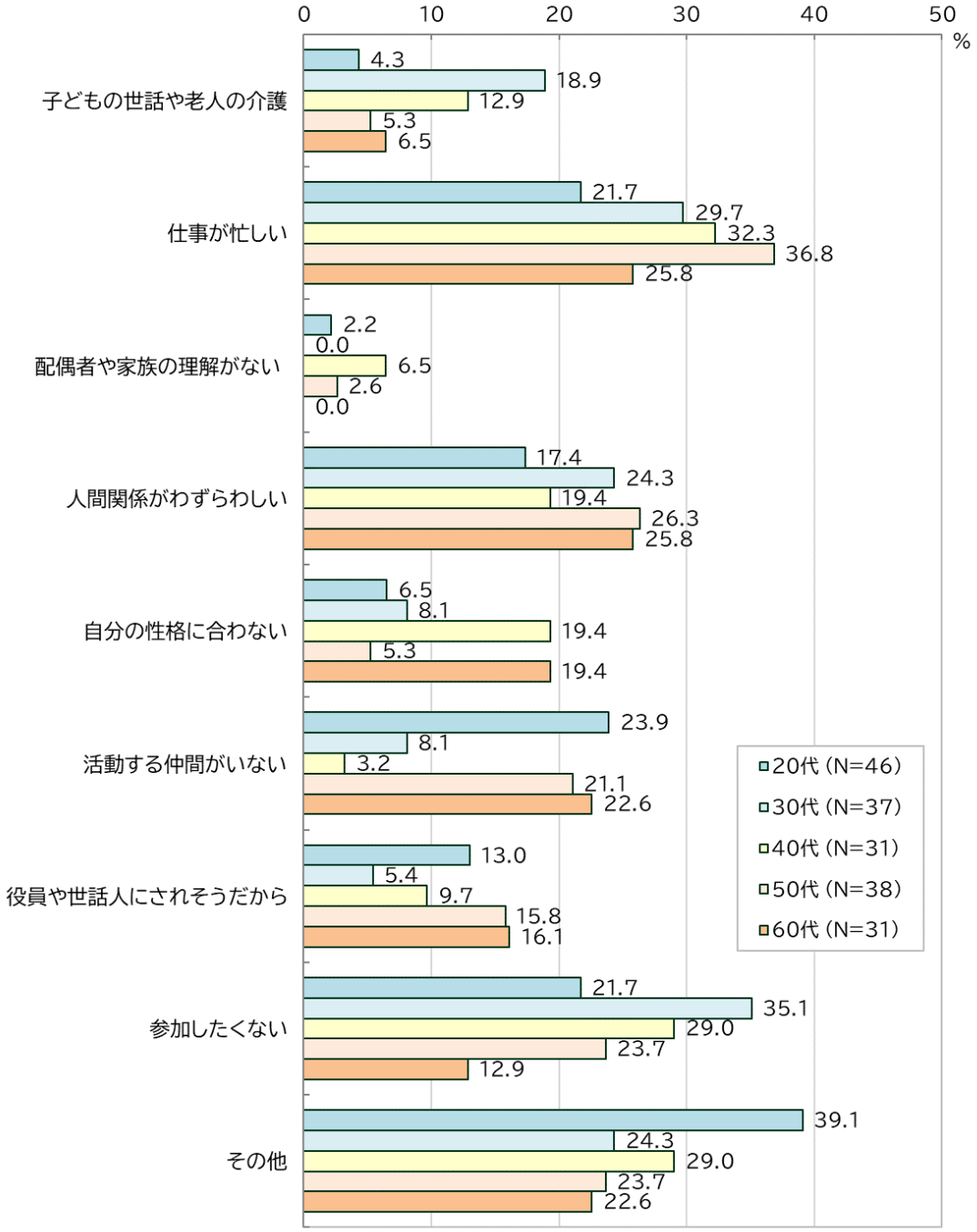
「その他」では、「参加する機会がない」、「親や夫が参加してくれている」等の意見があった。





年代別に見ると、20 代、30 代を除くすべての世代で「仕事が忙しい」が最も高くなっている。

20 代は「活動する仲間がいない」、30 代は「参加したくない」が最も高くなっている。20 代の「その他」では、「興味がない」、「親が参加してくれている」等の意見があった。



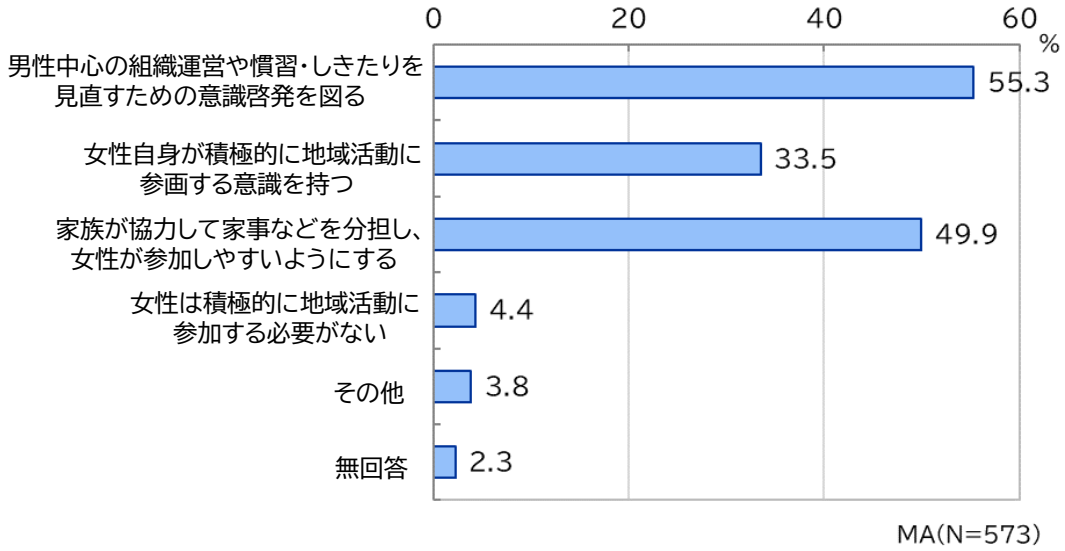
（MA）

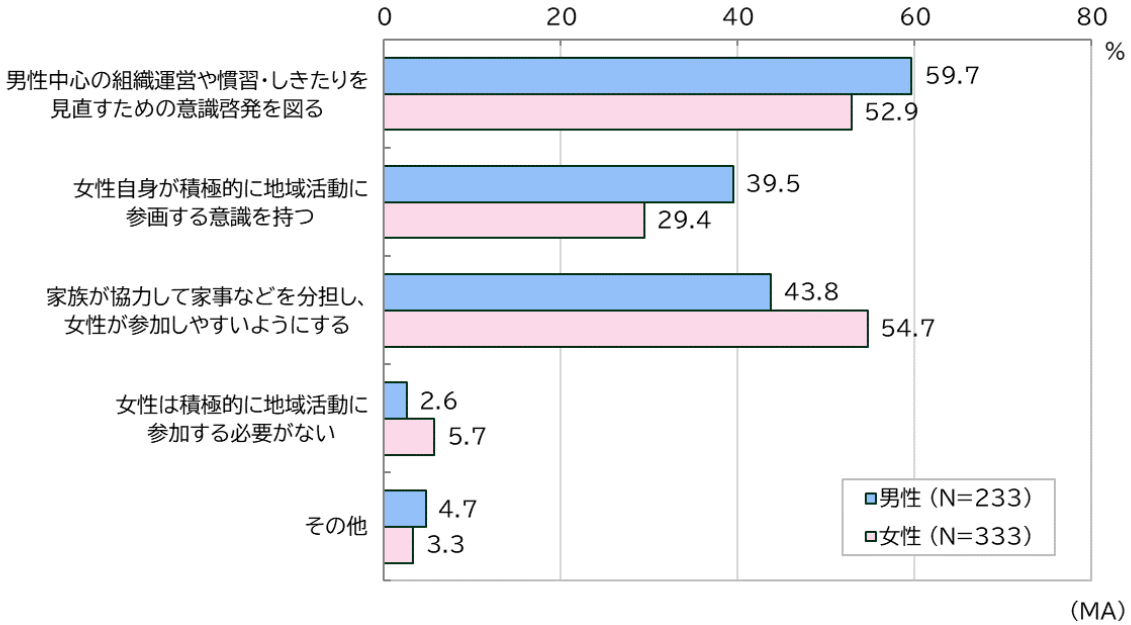
問１８　現在、自治会など、地域団体における長の女性の割合が低い状況にあります。今後、女性の視点を地域に取り入れるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（２つまで）

「男性中心の組織運営や慣習・しきたりを見直すための意識啓発を図る」が５割以上

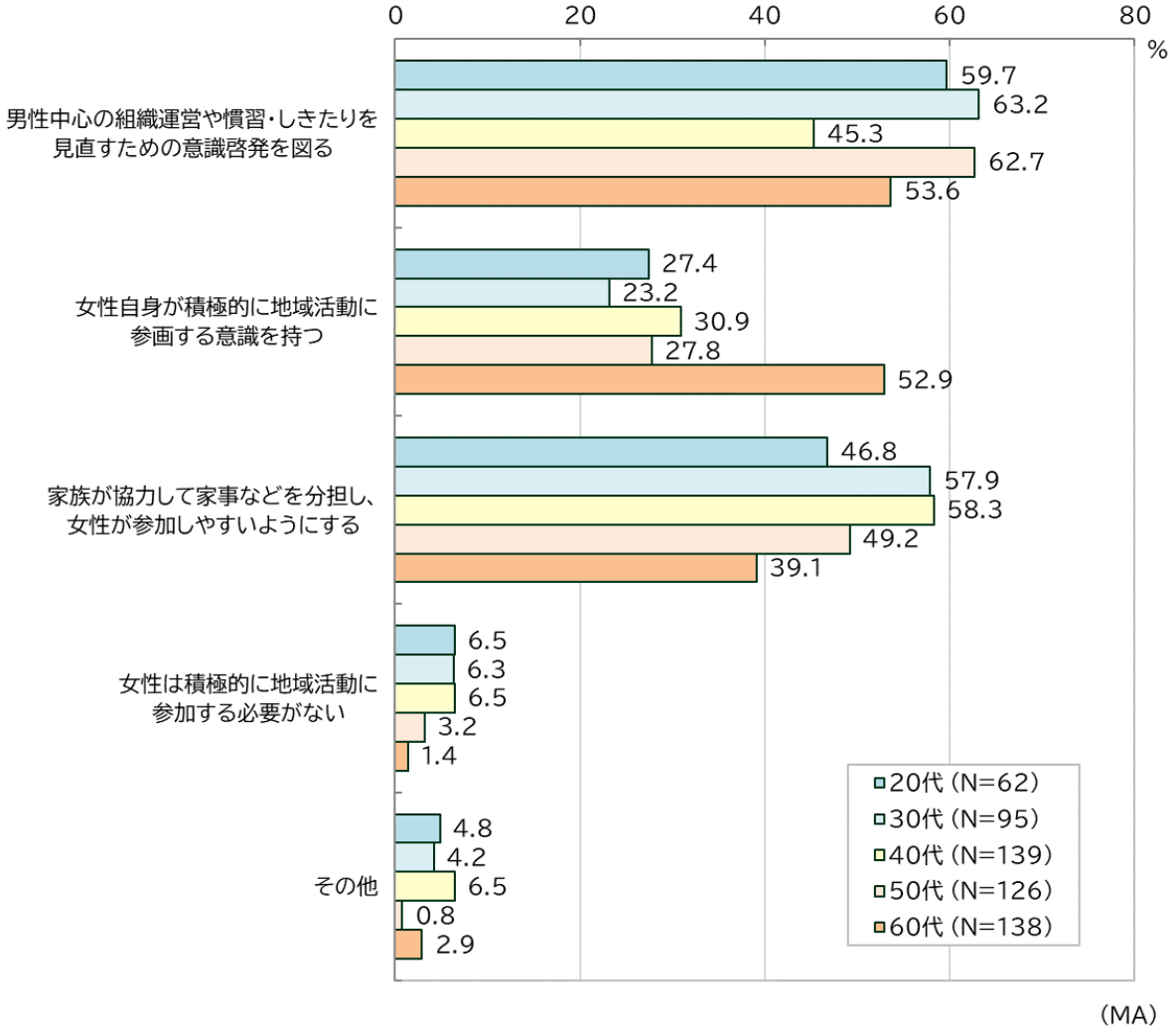
「男性中心の組織運営や慣習・しきたりを見直すための意識啓発を図る」（55.3%）が最も高く、次いで「家族が協力して家事などを分担し、女性が参加しやすいようにする」（49.9%）が高くなっている。

性別では、男性が「男性中心の組織運営や慣習・しきたりを見直すための意識啓発を図る」（59.7%）、女性は「家族が協力して家事などを分担し、女性が参加しやすいようにする」（54.7%）が最も高くなっている。





年代別に見ると、40 代を除くすべての年代で「男性中心の組織運営や慣習・しきたりを見直すための意識啓発を図る」の割合が最も高く、40 代では「家族が協力して家事などを分担し、女性が参加しやすいようにする」の割合が最も高くなっている。



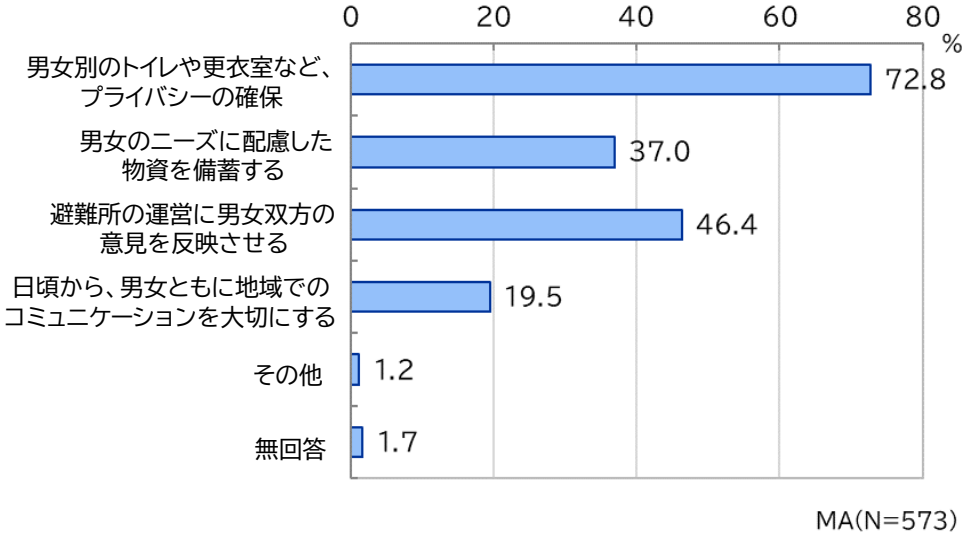
◆防災等における男女共同参画の推進について

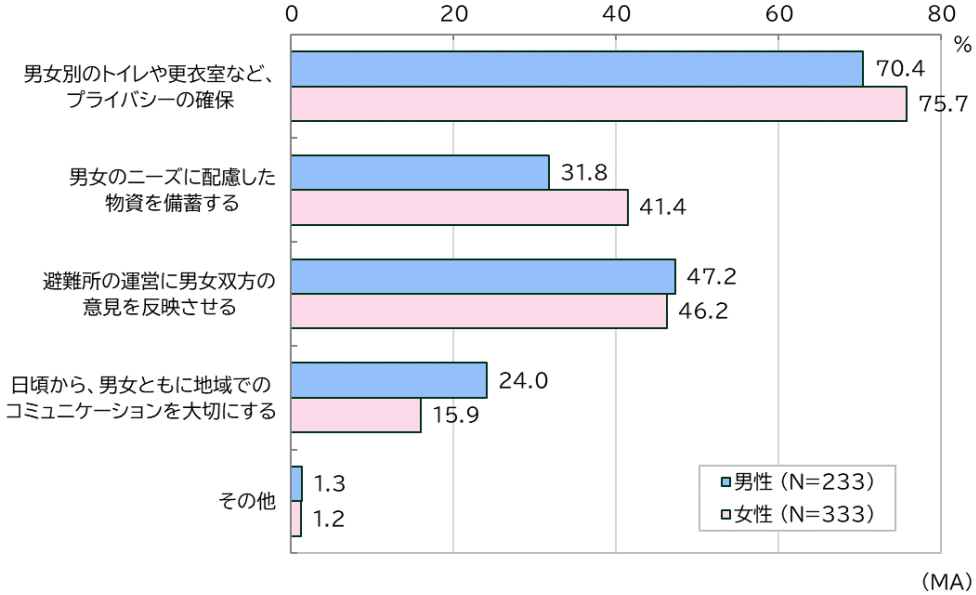
問１９　災害時に男女共同参画の視点を取り入れた避難所とするには、どのようなことが必要だと思いますか。（２つまで）

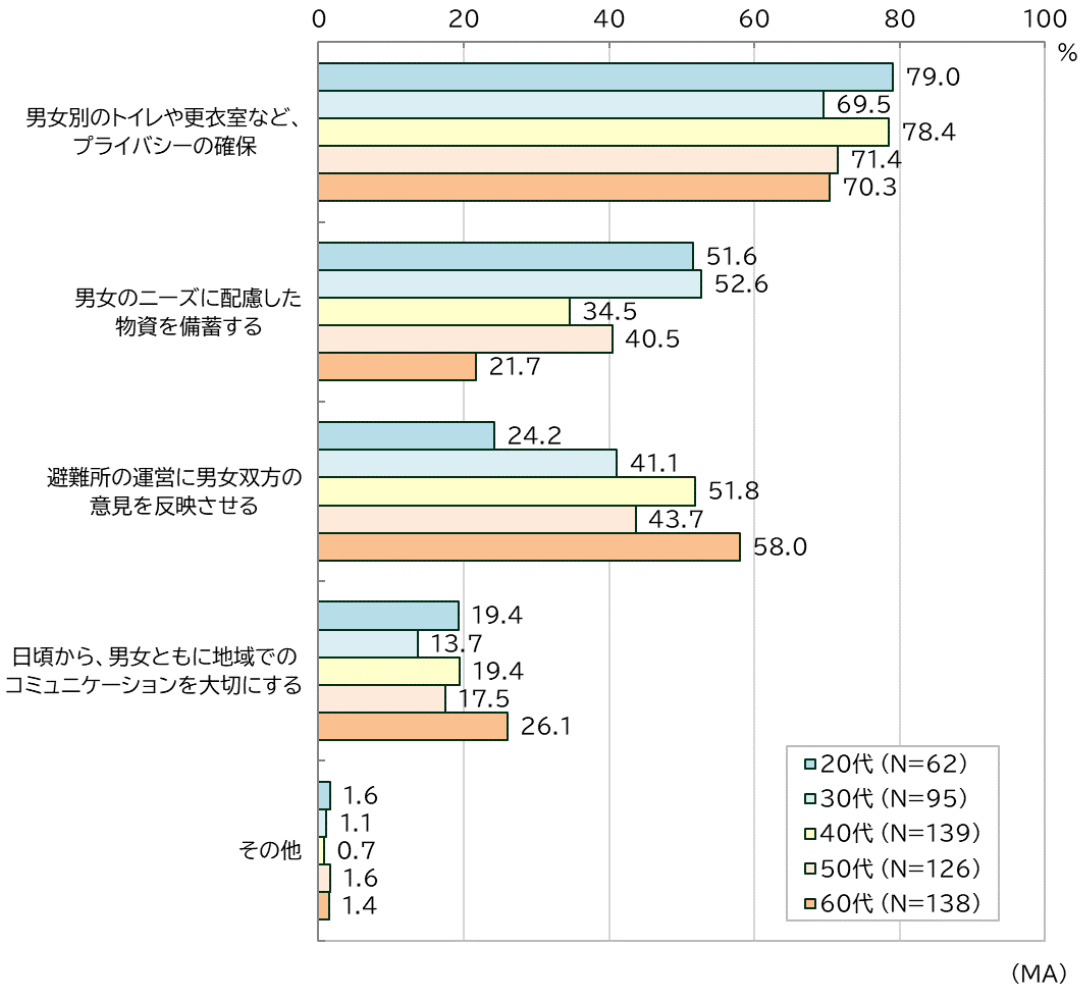
「男女別のトイレや更衣室など、プライバシーの確保」が７割以上

「男女別のトイレや更衣室など、プライバシーの確保」（72.8%）が最も高く、次いで「避難所の運営に男女双方の意見を反映させる」（46.4%）が高くなっている。

性別、年代別で見ても、「男女別のトイレや更衣室など、プライバシーの確保」がそれぞれで最も高くなっている。






0
20
40
60
80
100
%
男女別のトイレや更衣室など、プライバシーの確保
79.0
69.5
78.4
71.4
70.3
男女のニーズに配慮した物資を備蓄する
51.6
52.6
34.5
40.5
21.7
避難所の運営に男女双方の意見を反映させる
24.2
41.1
51.8
43.7
58.0
日頃から、男女ともに地域でのコミュニケーションを大切にする
19.4
13.7
19.4
17.5
26.1
その他
1.6
1.1
0.7
1.6
1.4
20代（N=62）
30代（N=95）
40代（N=139）
50代（N=126）
60代（N=138）
（MA）

◆配偶者等からの暴力防止に関する意識について

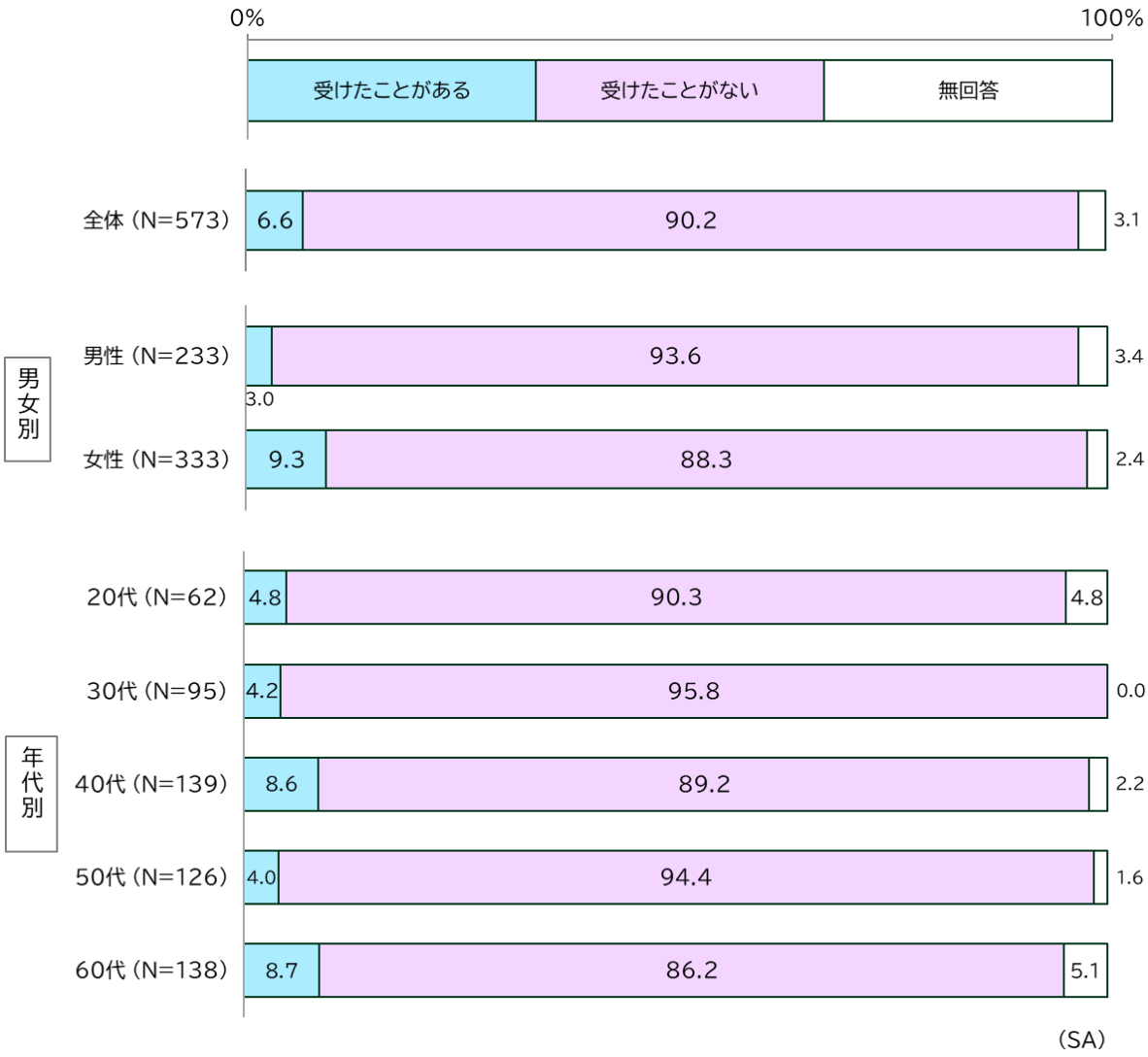
問２０　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）を受けたことがありますか。
また、周りに受けた（受けている）人がいますか。（それぞれ１つ）

女性の方が「受けたことがある」割合が高い

「受けたことがある」は 6.6%、「受けたことがない」は 90.2%となっている。

性別では、「受けたことがある」は女性（9.3%）が男性（3.0%）より 6.3 ポイント高くなっている。

年代別に見ると、「受けたことがある」は 40 代が 8.6%、60 代が 8.7%となっており、他の年代よりも高くなっている。

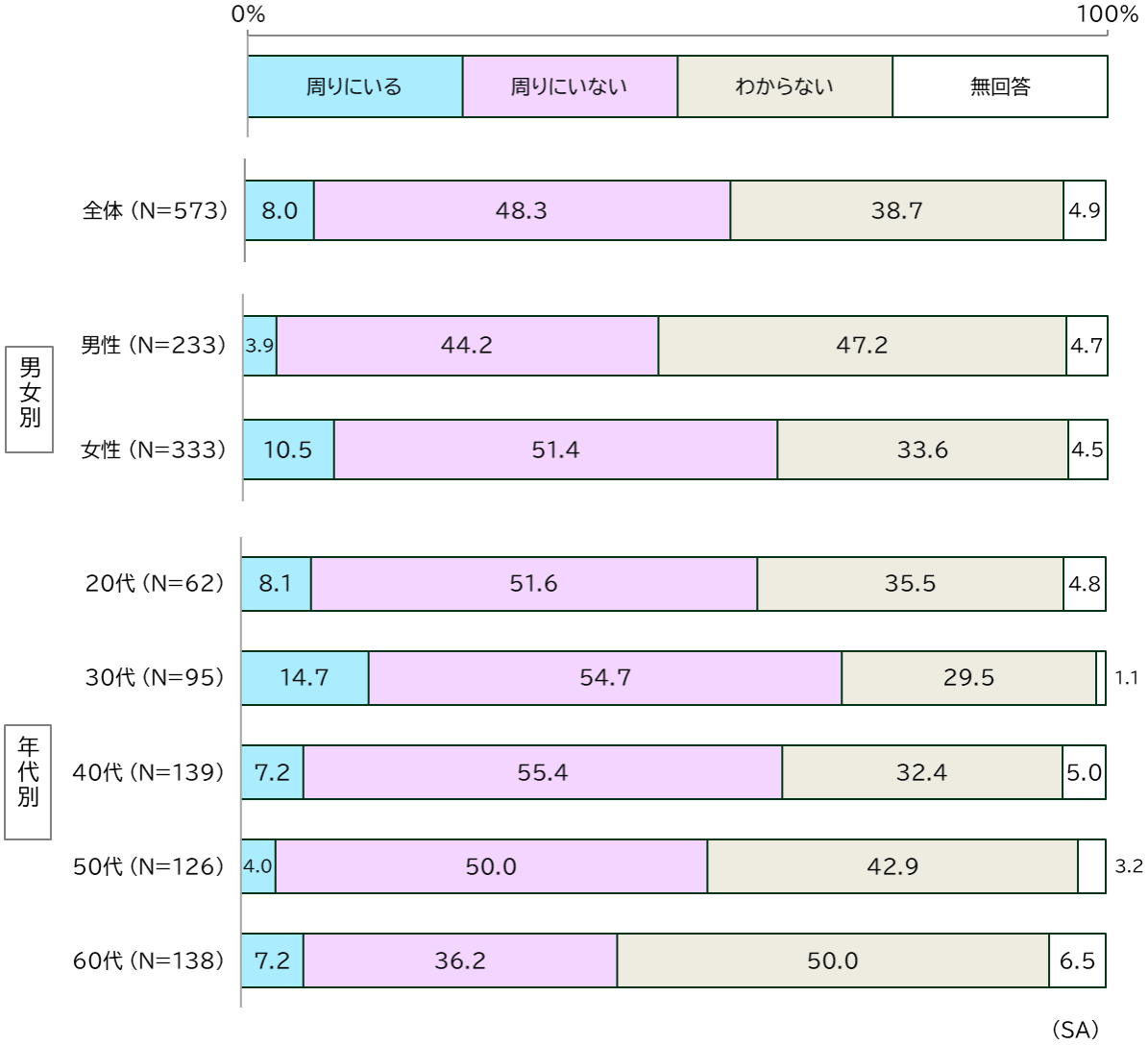


女性の方が「周りにいる」割合が高い

「周りにいる」は 8.0%、「周りにいない」は 48.3%、「わからない」は 38.7%となっている。

性別では、「周りにいる」は女性（10.5%）が男性（3.9%）より 6.6 ポイント高くなっている。

年代別に見ると、「周りにいる」は 30 代（14.7%）が最も高く、「わからない」は 60 代（50.0%）が最も高くなっている。

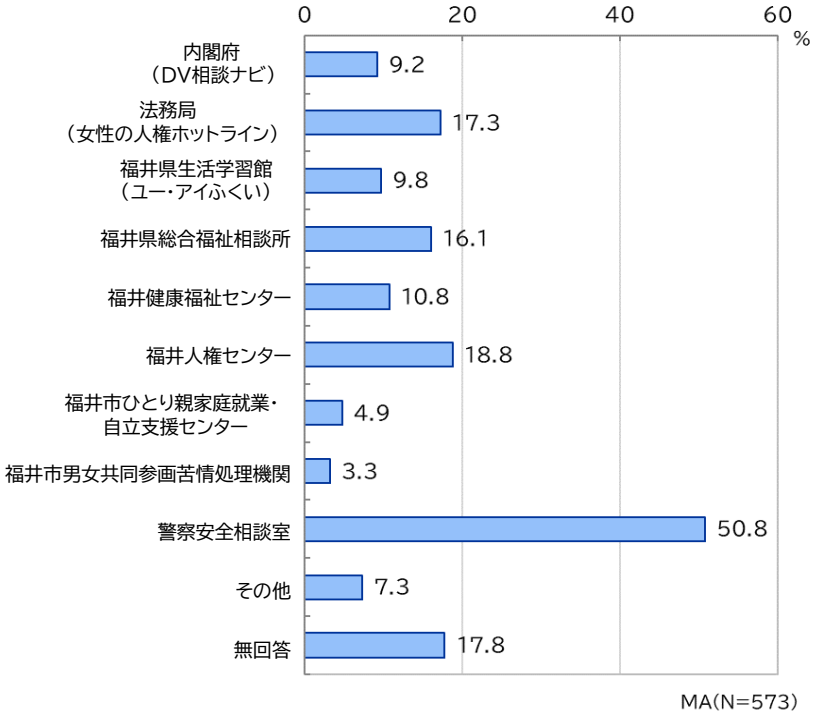


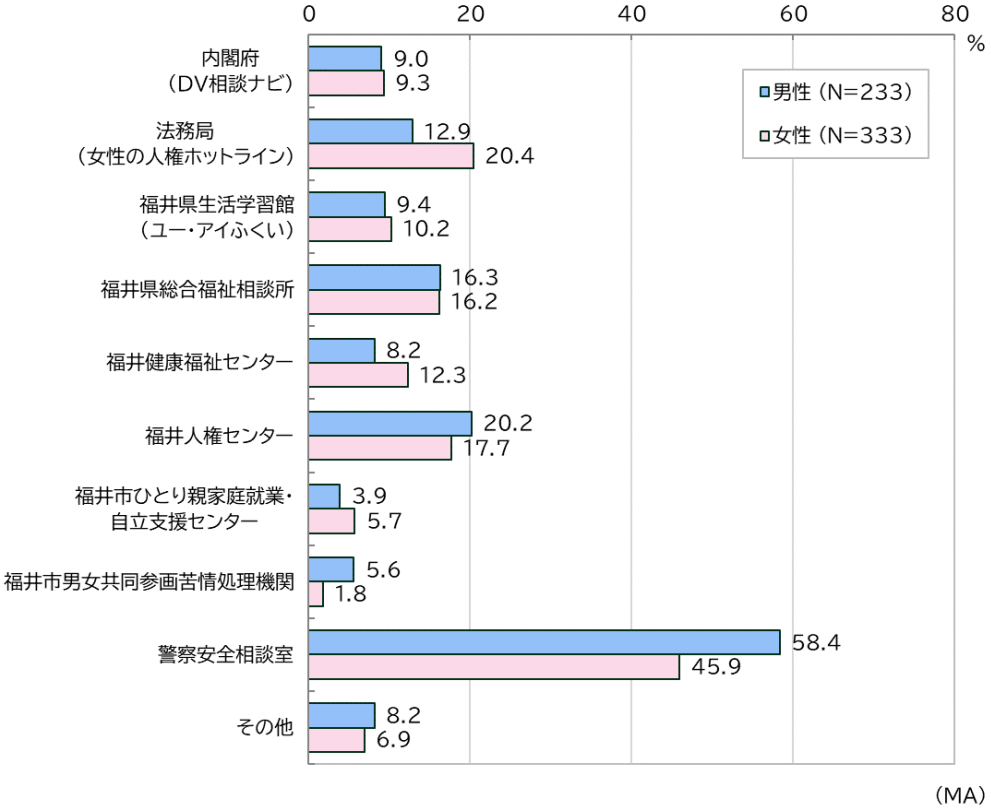
問２１　配偶者やパートナーからＤＶを受けた場合に、相談する機関を知っていますか。（あてはまるもの全て）

「警察安全相談室」が５割以上

「警察安全相談室」が（50.8%）最も高くなっている。それ以外の相談機関については、２割に満たなかった。

性別で見ても、「警察安全相談室」がそれぞれで最も高くなっている。



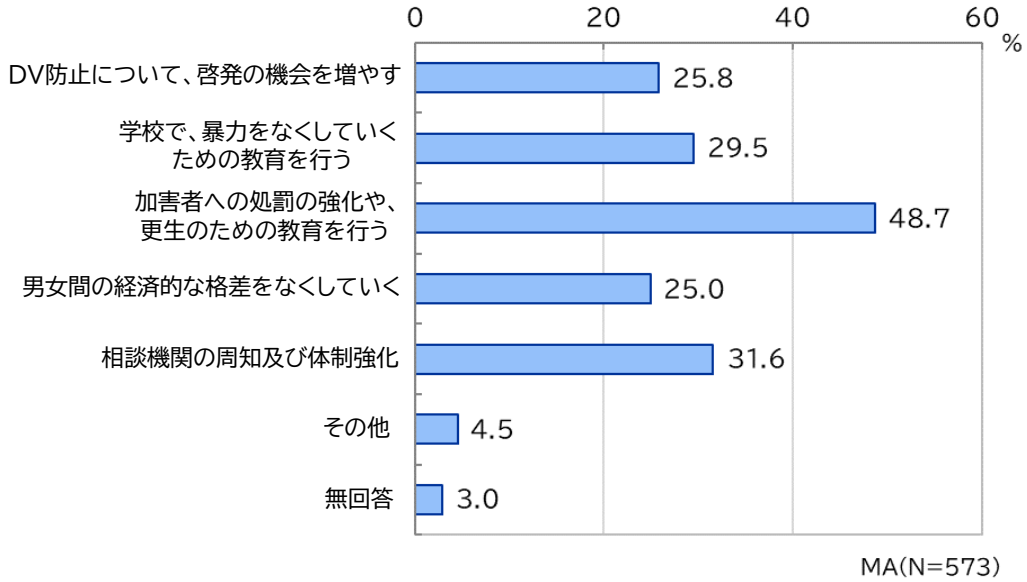


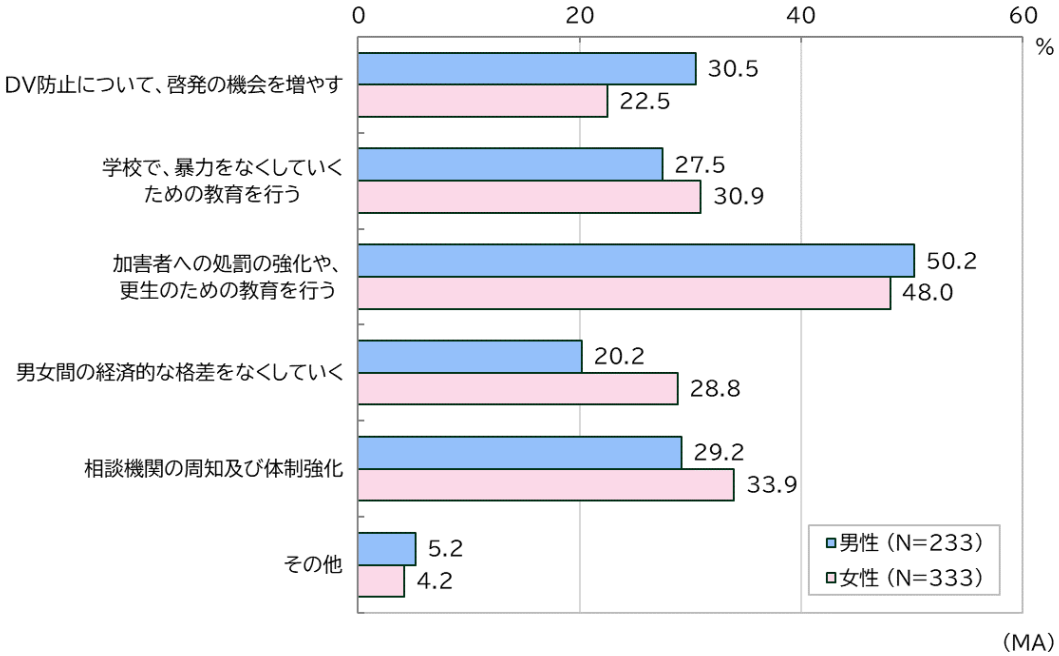
問２２　配偶者やパートナーからのＤＶをなくしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（２つまで）

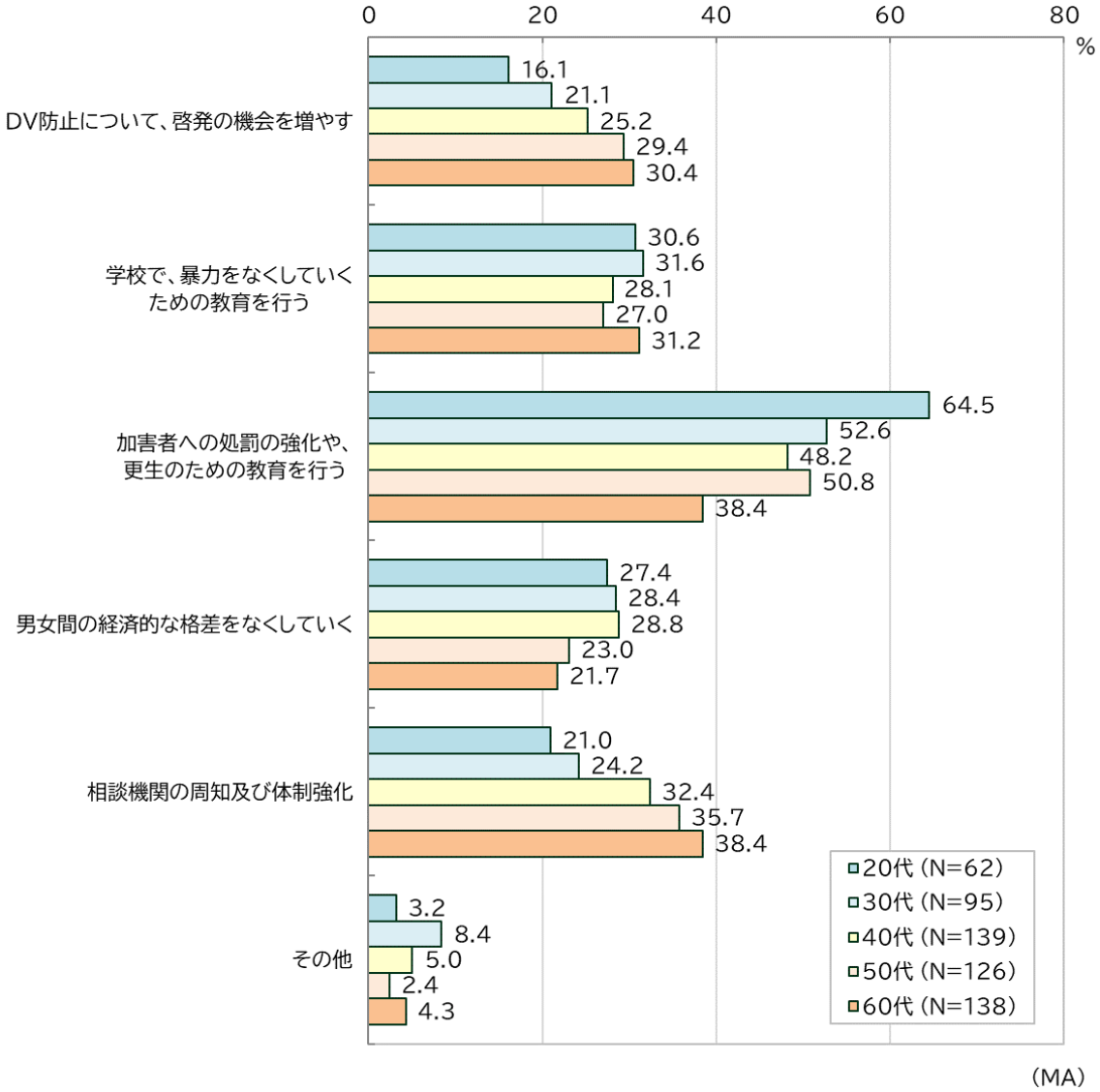
「加害者への処罰の強化や、更生のための教育を行う」が４割以上

「加害者への処罰の強化や、更生のための教育を行う」（48.7%）が最も高く、次に「相談機関の周知及び体制強化」（31.6%）が高くなっている。

性別、年代別に見ても、「加害者への処罰の強化や、更生のための教育を行う」がそれぞれで最も高くなっている。






0
20
40
60
80
%
DV防止について、啓発の機会を増やす
16.1
21.1
25.2
29.4
30.4
学校で、暴力をなくしていくための教育を行う
30.6
31.6
28.1
27.0
31.2
加害者への処罰の強化や、更生のための教育を行う
64.5
52.6
48.2
50.8
38.4
男女間の経済的な格差をなくしていく
27.4
28.4
28.8
23.0
21.7
相談機関の周知及び体制強化
21.0
24.2
32.4
35.7
38.4
その他
3.2
8.4
5.0
2.4
4.3
20代（N=62）
30代（N=95）
40代（N=139）
50代（N=126）
60代（N=138）
（MA）

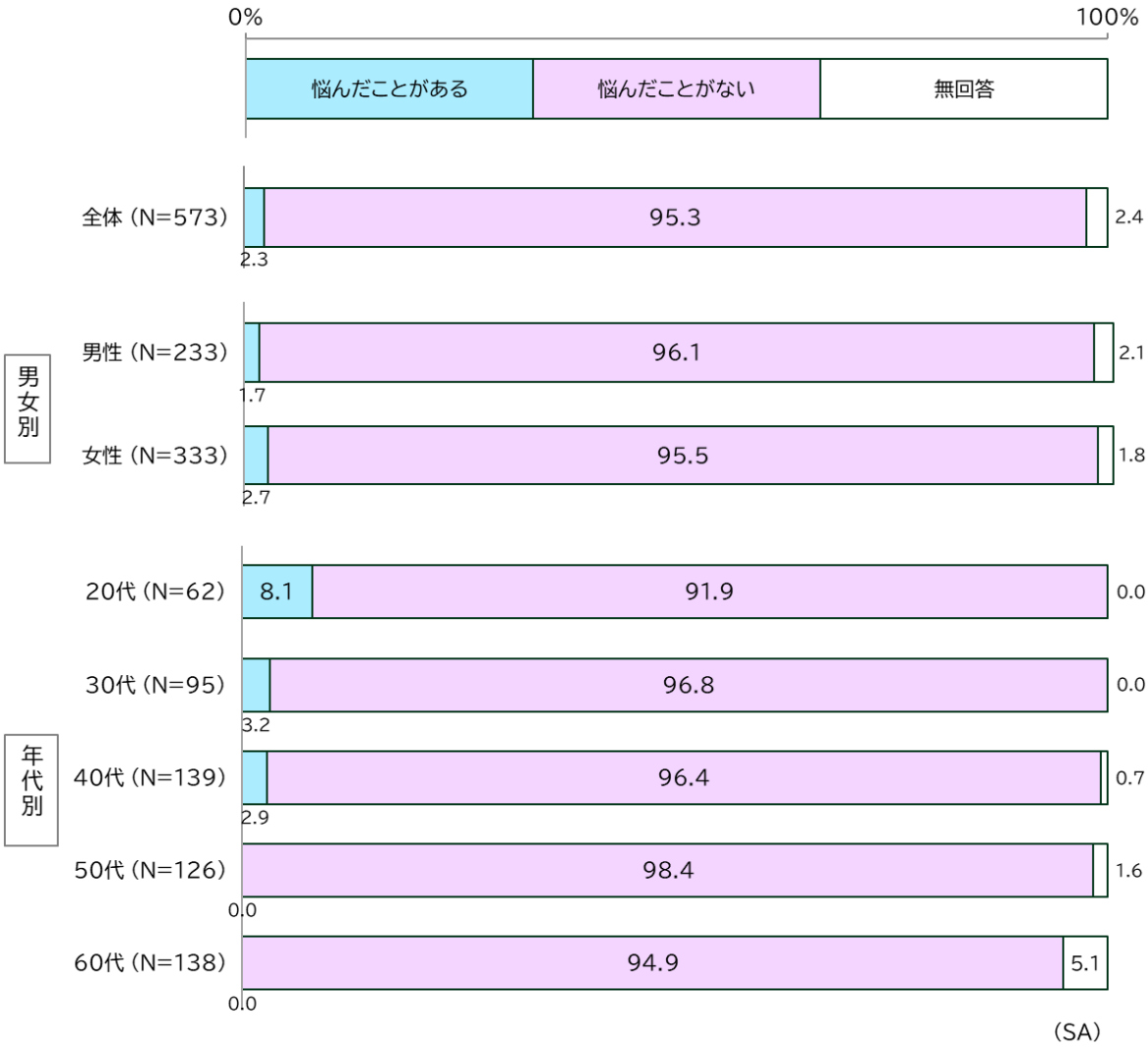
◆多様な性に関する意識について

問２３　性的指向や性自認について、悩んだことがありますか。また、周りで悩んだ（悩んでいる）人がいますか。（それぞれ１つ）

２０代で「悩んだことがある」割合が高い

「悩んだことがある」は 2.3%、「悩んだことがない」は 95.3%となっている。性別では、大きな差は見られない。

年代別に見ると、「悩んだことがある」は 20 代（8.1%）で最も高くなっている。

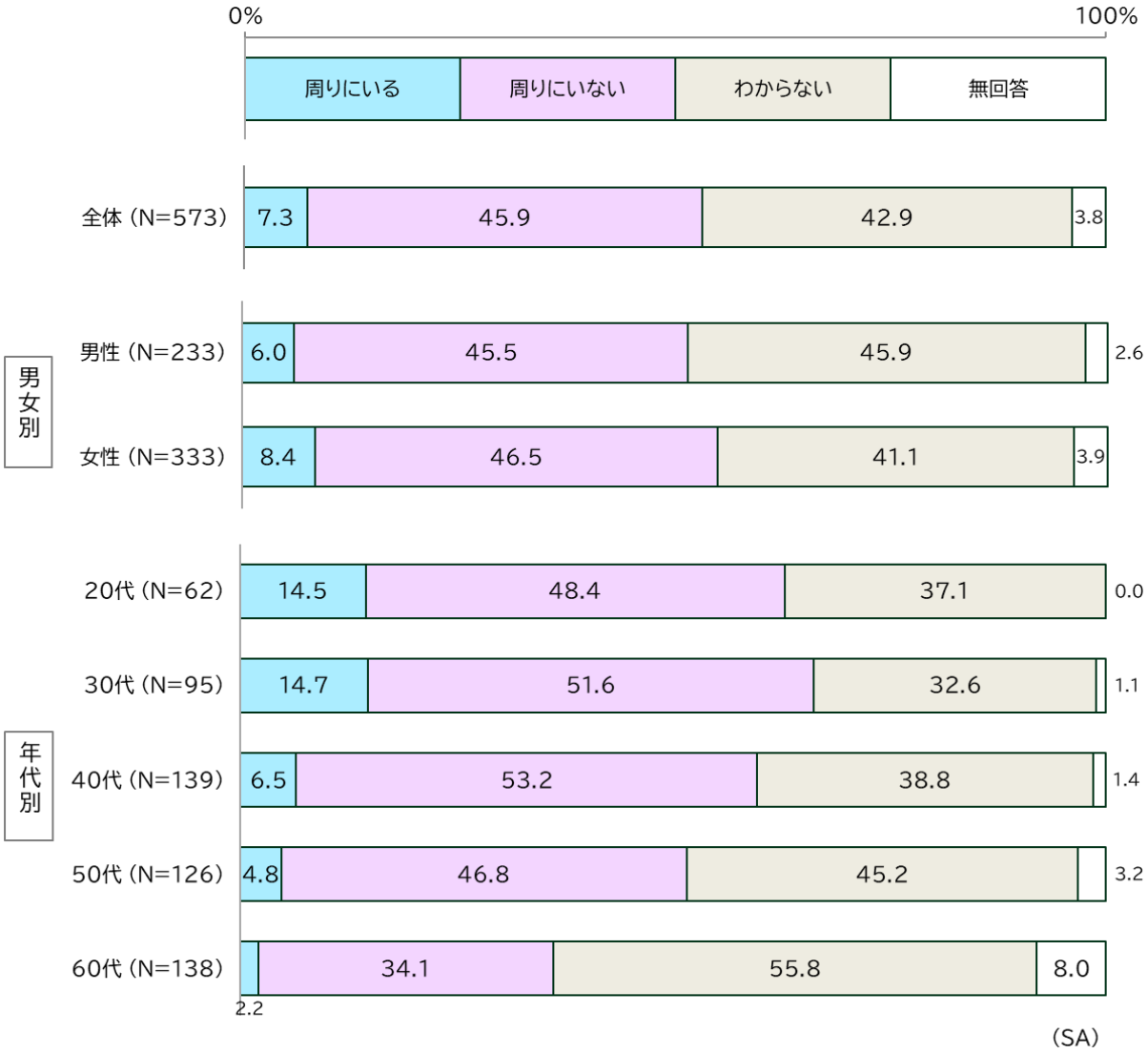


若い年代ほど「周りにいる」割合が高い

「周りにいる」は 7.3%、「周りにいない」は 45.9%、「わからない」は 42.9%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年代別に見ると、20 代、30 代の若い世代ほど「周りにいる」が高く、「わからない」は年代が上がるほど高くなっている。



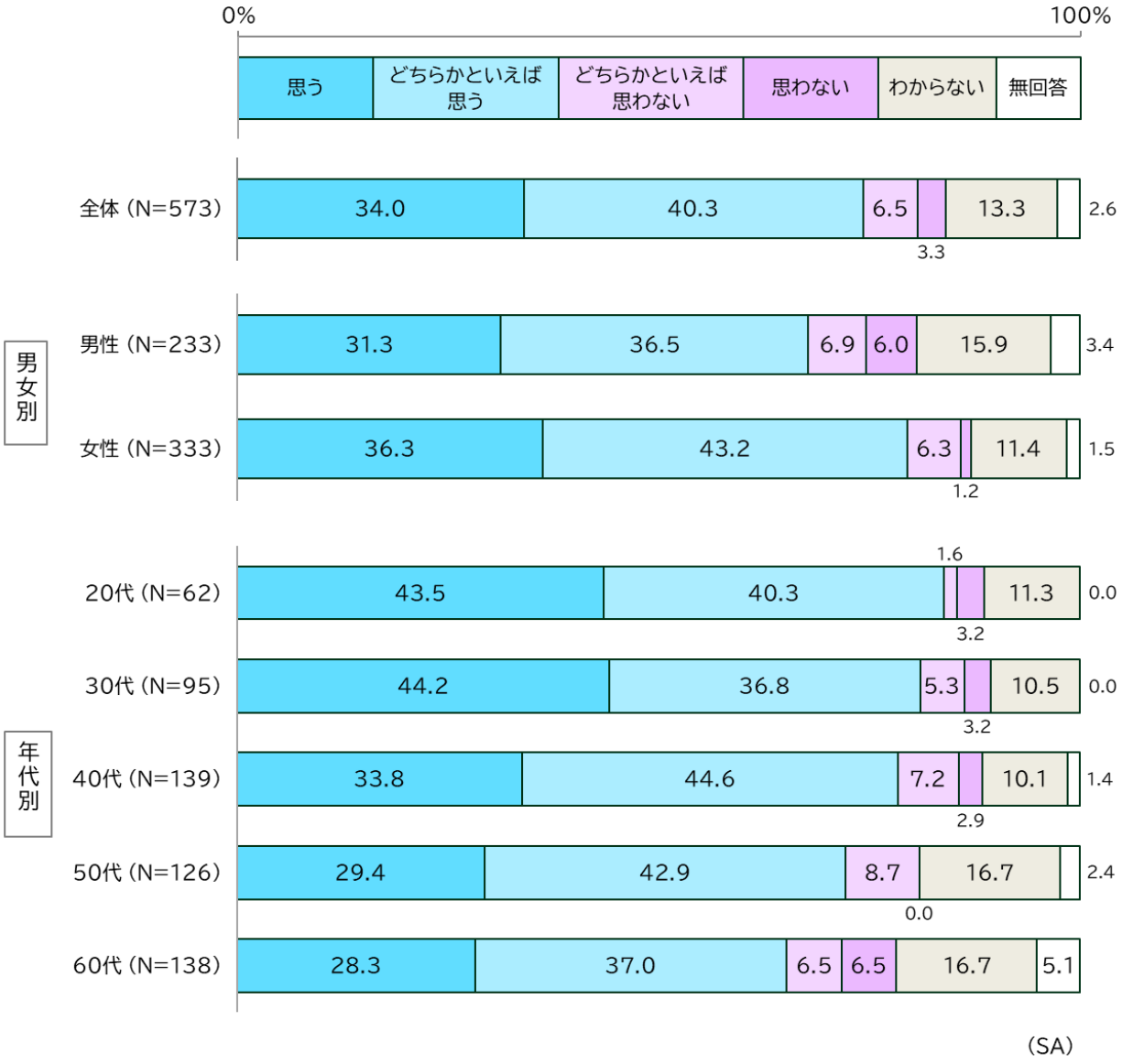
問２４　現在、性的指向や性自認に悩む方にとって、偏見や差別により生活しづらい社会だと思いますか。（１つ）

７割以上が生活しづらい社会を意識

生活しづらい社会を意識する（「思う」、「どちらかといえば思う」）割合が 74.3%、意識しない（「思わない」、「どちらかといえば思わない」）が 9.8%となっている。

性別では、女性の方が意識する割合が高くなっている。

年代別に見ると、若い年代ほど意識する割合が高くなっている。

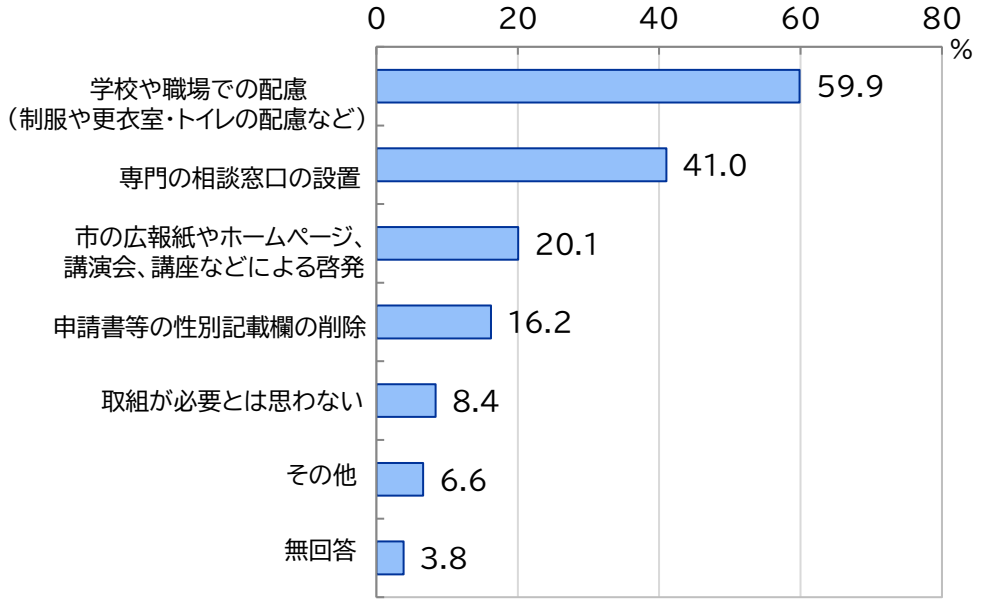


問２５　性的指向や性自認に悩む方が生活しやすくしていくためには、どのような取組が必要だと思いますか。（２つまで）

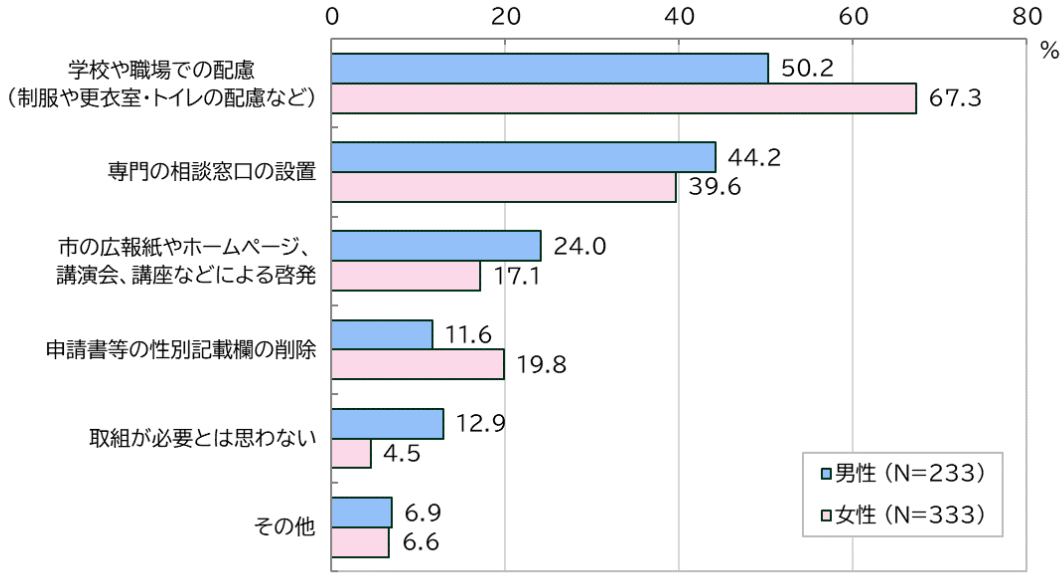
「学校や職場での配慮（制服や更衣室・トイレの配慮など）」が約６割

「学校や職場での配慮（制服や更衣室・トイレの配慮など）」（59.9%）が最も高く、次いで「専門の相談窓口の設置」（41.0%）が高くなっている。

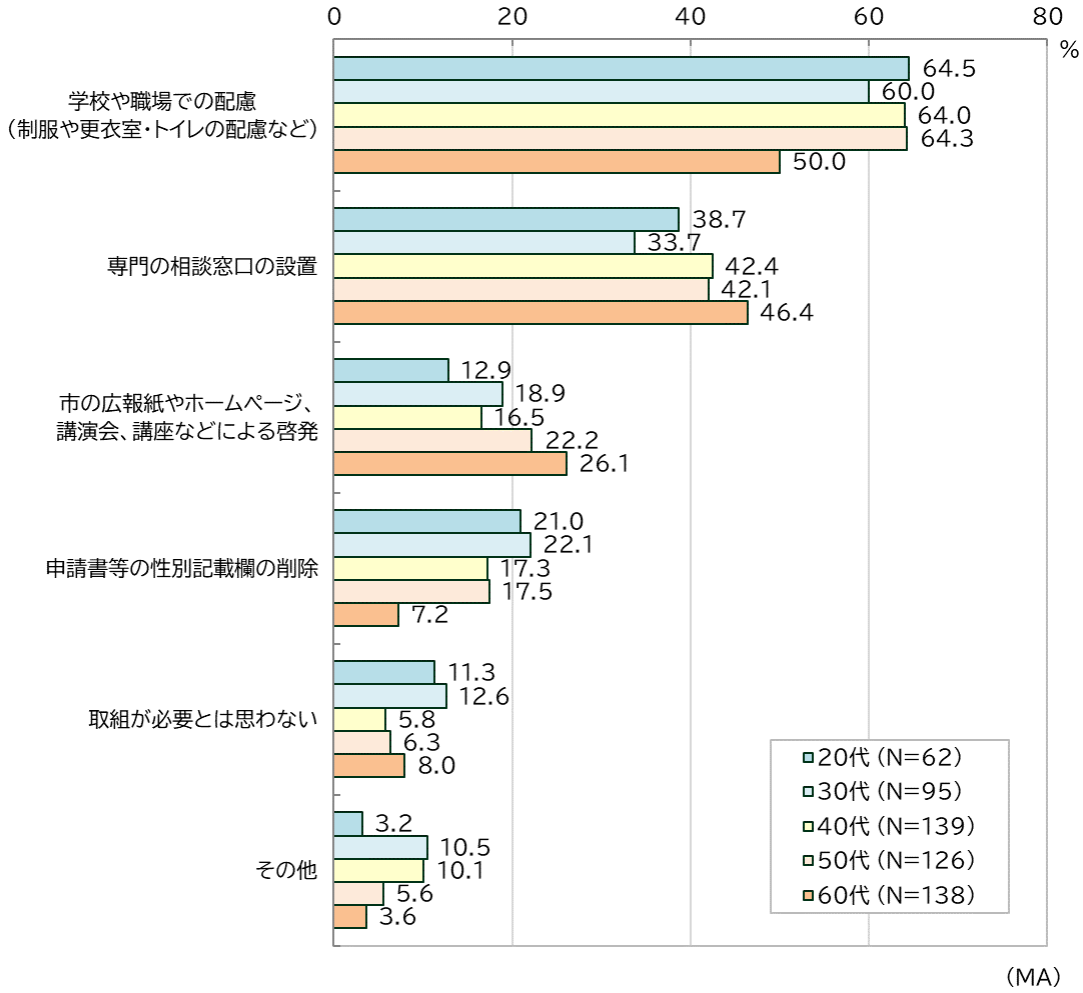
性別、年代別に見ても、同様の順位となっている。



MA(N=573)



（MA）

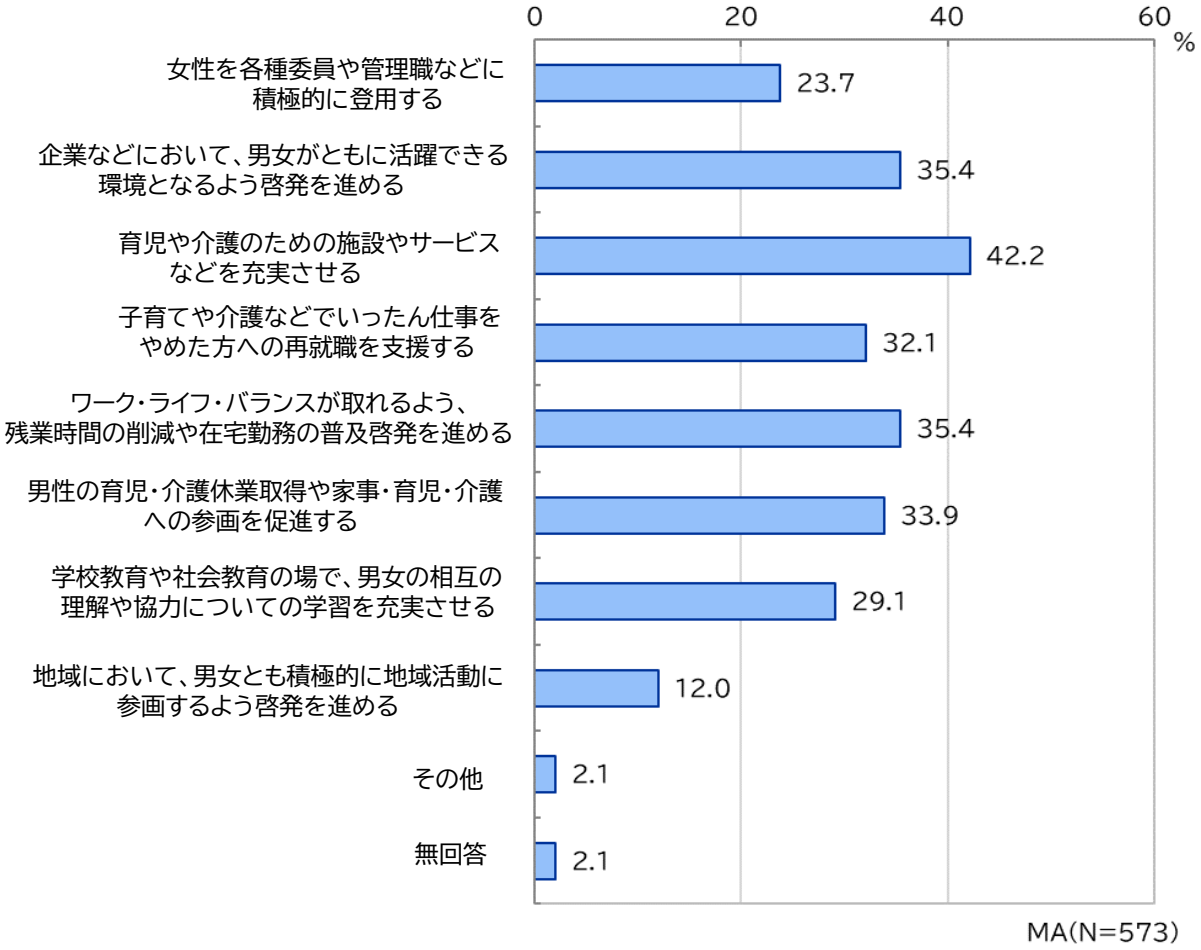

0
20
40
60
80
%
学校や職場での配慮
（制服や更衣室・トイレの配慮など）
64.5
60.0
64.0
64.3
50.0
専門の相談窓口の設置
38.7
33.7
42.4
42.1
46.4
市の広報紙やホームページ、
講演会、講座などによる啓発
12.9
18.9
16.5
22.2
26.1
申請書等の性別記載欄の削除
21.0
22.1
17.3
17.5
7.2
取組が必要とは思わない
11.3
12.6
5.8
6.3
8.0
その他
3.2
10.5
10.1
5.6
3.6
20代（N=62）
30代（N=95）
40代（N=139）
50代（N=126）
60代（N=138）
（MA）

◆男女共同参画推進のための取組について

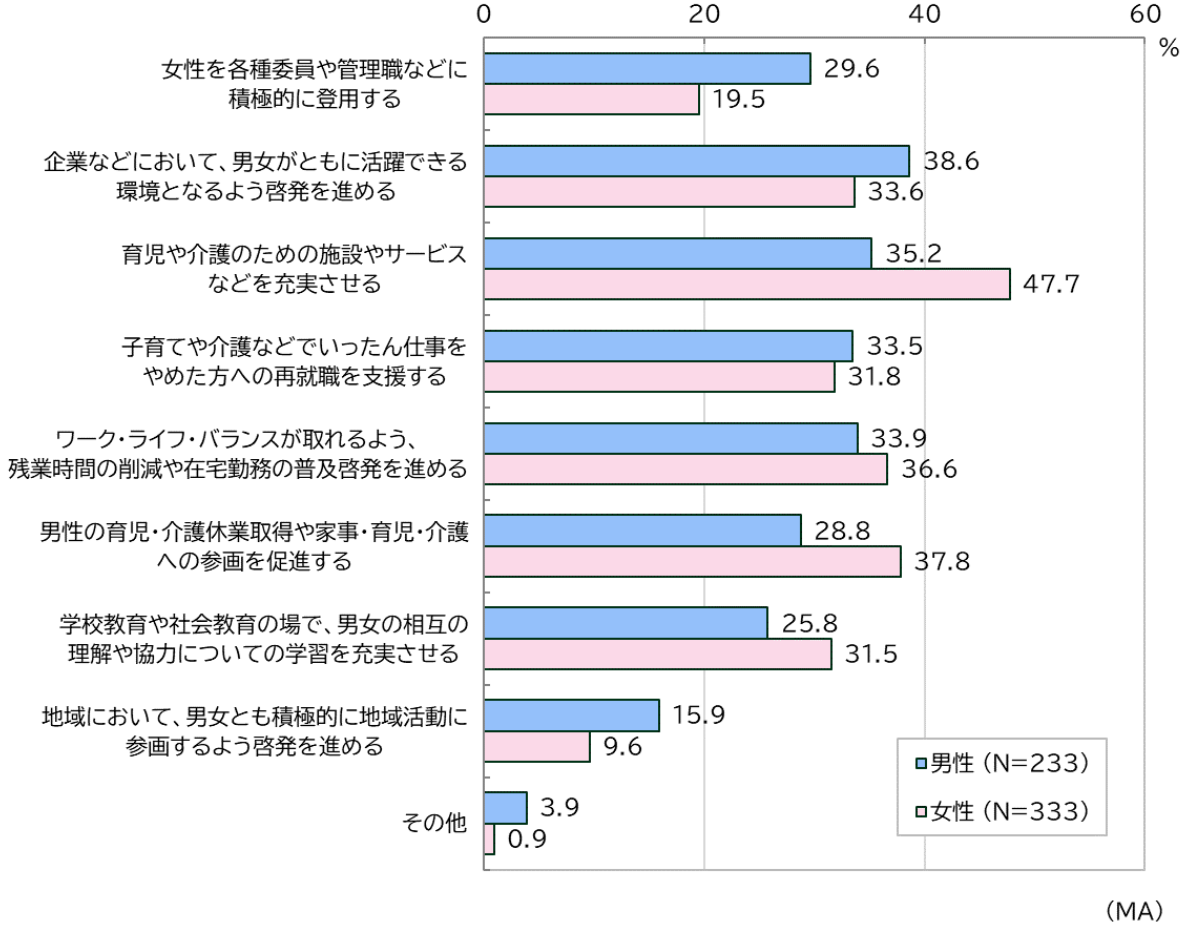
問２６　男女共同参画社会を推進していくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（３つまで）

「育児や介護のための施設やサービスなどを充実させる」が４割以上

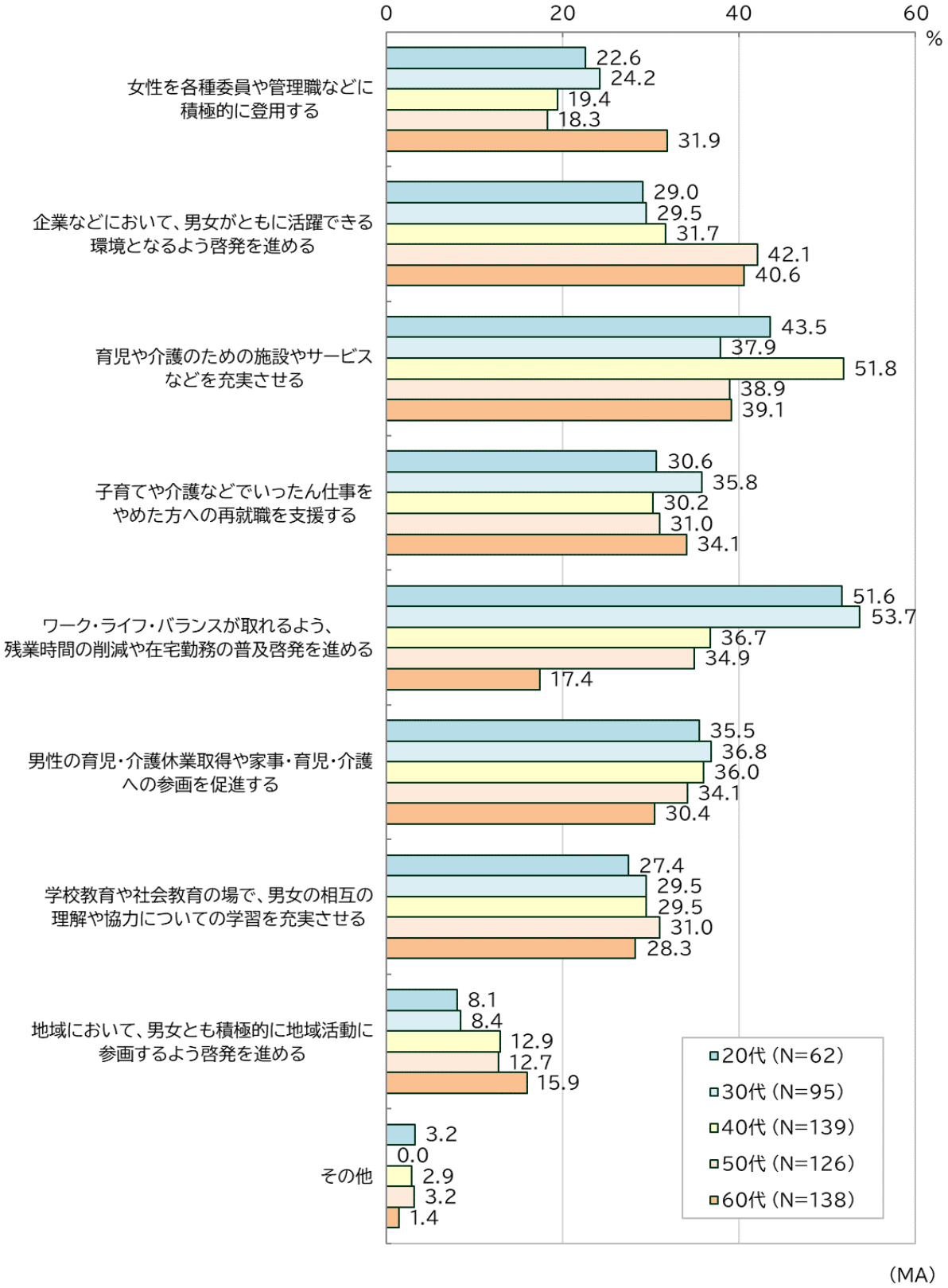
「育児や介護のための施設やサービスなどを充実させる」(42.2%) が最も高く、次いで「企業などにおいて、男女がともに活躍できる環境となるよう啓発を進める」(35.4%)、「ワーク・ライフ・バランスが取れるよう、残業時間の削減や在宅勤務の普及啓発を進める」(35.4%) が高くなっている。



性別で見ると、男性は「企業などにおいて、男女がともに活躍できる環境となるよう啓発を進める」(38.6%)、女性は「育児や介護のための施設やサービスなどを充実させる」(47.7%) が最も高くなっている。



年代別では、20 代、30 代の若い世代で「ワーク・ライフ・バランスが取れるよう、残業時間の削減や在宅勤務の普及啓発を進める」、40 代で「育児や介護のための施設やサービスなどを充実させる」が最も高くなっている。



（MA）

Ⅳ　自由意見

問２７の男女共同参画に関する意見は次のとおりである。下記の項目ごとに分類し、それぞれ主な意見等を掲載している。

1　男女平等に関する意識
2　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
3　男女がともに担う家庭生活づくり
4　男女とも活躍できる職場環境の推進
5　政策・方針決定過程への女性参画
6　個性や能力を生かす学校教育の推進
7　男女がともに担う地域社会づくり
8　防災等における男女共同参画の推進
9　多様な性に関する意識
10　男女共同参画の推進
11　コロナ禍の中で気付いたこと

1　男女平等に関する意識
「男女平等」と表現されると、何が平等なのか分からない。出産など女性しかできないことがあるため、ただ平等と表現することは誤解を招く。 男女共同参画の中で平等という言葉を使うことに抵抗を感じる。（40代　男性）
男と女、生まれながらにして能力や機能も違うので、本当の意味で全く平等は難しいと思う。大事な事は、それぞれの能力も受け入れて尊敬し合い、助けて欲しい時に助けてあげる事であり、柔軟な対応が必要になってくると思う。男と女の２つではなく、色んな男女がいると思うので、個人個人が何かしたい時に性別が壁になる事がなくなる社会になればよい。男と女ではなく、多様な人が暮らしやすい社会になれば…。（30代　女性）
男女が平等になる事は絶対ありえないことだと思うが、協力、理解し合うことは必要だと思う。男性にも女性を理解する勉強が必要だと思う。若いパートナーより、４０代、５０代、６０代、７０代の考え方の方が古いので、考え直してほしい。（40代　女性）
男女平等にといっても、男と女で出来ること、求められることは違うので平等にはなれない（同じことはできない）。男にしか出来ないこと、女にしかできないことがあって、それをお互いが尊敬しあい、時には手助けし合うことが意識的に平等になっていくのだと思う。（40代　女性）

2　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
女性を役員にすることも大切だと思うが、それ以上に男女ともワーク・ライフ・バランスが取れるような組織づくりを意識すべきである。 今や残業することは時間管理のできない人のすることだというくらいに社会の考え方を変えなければ「男女共同参画」には結びついていかないと思う。（30代　男性）
家で過ごす時間が増えて家事の量が増えて、働きながらはきつい。女は家庭に入るべき、家事をすべきと思っている中年から老人が多い。（20代　女性）
福井の場合はほとんどが共働きが多いので、女性に負担が多いと感じる。手伝う家事ではなくて「半分家事」になるべきだと思う。そこが変わらない限り、女性の社会進出、地域進出は難しいのではと思う。（60代　女性）

3　男女がともに担う家庭生活づくり
子は作るが子育てをしない男性がいっぱいいるので、中高年（４０～５０代）の男性にはめいっぱい勉強してほしい。また、家事も古びた考えで女性がやるものとの考えが多いので、その考えを改めてほしい。（40代　男性）
コロナ禍で学校が休みになった時に、やはり自身の周りでは女性たちが仕事を休む事例が多くあり、男女共同参画の意識が後退したように感じる。（50代　男性）
私の職場では子供さんの具合が悪くなると病院に連れていくため仕事を休んだり、出社が遅れる女性がいる。ご主人が代わることはない。それは奥様の役割という風土が変化しない限り、就職や職場環境においても女性劣勢の立場も変わることがないと感じる。（50代　男性）
男性は育児に対して、参加しているというよりは手伝っているという意識の方が多いと聞きます。男性の意識改革が必要だと思う。（30代　女性）
主人が在宅勤務となる中で、余計に忙しくなり、「自宅にいるのに…。」と思ってしまうことが増えたかもしれない。（40代　女性）
現在生活している立場にもよるが、どうしても男の人しか出来ない事、女の人しか出来ない事があり、これから先はわからないが、助け合いながら生活していけばいいのかなと思う。（60代　女性）

4　男女とも活躍できる職場環境の推進
福井県には時代の先端となる様な働き方をさせる企業が少ないと感じる。 中小企業の非効率な働き方を見直し、楽に仕事を出来るように市が支援するだけでグンと男女共に働きやすくなり、家庭の時間が持てる事と思う。 IT化や楽に仕事をして時短化すると言った意識が市全体や県全体で極端に少ないと感じる。 その為、今回の様な感染症や大雪の際に、どうしても出勤せねばという意識が生まれて非効率な働き方がまかり通っている。（20代　男性）

4　男女とも活躍できる職場環境の推進

夫婦で共働きをしたり、過度な残業をしなくてもよい環境であれば、男女平等に家事の負担ができたり、地域への貢献もできると考える。（30代　男性）

在宅勤務の推進など、より働きやすい環境を目指していくべきだと思われる。また、男女共同参画（に関わる事業）について成功、失敗の事例を収集し、体系的に分析することも有用だと思う。（30代　男性）

まだまだ子供を産み、社会復帰して働こうと思うと、ハードルが高いと感じることが多い。
少しでも子育てしながら平等に働ける社会になるよう、頑張っていただけると嬉しい。大変な時期ですが、頑張ってください。（20代　女性）

主人の会社は男性が家族のことで休むことがほとんどない職場。私は正社員で２人子どもがいるが、体調不良や学校行事等すべて私が休みを取っている。３人目の子どもも、男性が残業なく、休みが取れれば考えたいが。男性の職場の理解が必要だと思う。（30代　女性）

以前に比べ男女平等の流れにはなっていると思うが、実際にはまだ不平等だと感じる。女性が活躍するためには男性(特に経営者や役員など)の意識改革が必要である。政府は以前女性の管理職を増やすことを目標としていたが最近はあまり耳にしない。今後も政府、行政が継続して女性が活躍するための取組や後押しが不可欠であると思う。（50代　女性）

女性の管理職を増やしたり、賃金格差の解消を図るためには、女性が子育てや介護中であっても継続して働き続けられる企業環境、家庭環境、社会環境の整備が必要。
こうした環境は、高齢者や障がい者、外国人にとっても働きやすい環境になるはず。（60代　女性）

5　政策・方針決定過程への女性参画

質問にもあったが、女性管理職の有無はあまり参考にならないかと思う。医療・介護など社会的に必要な業種では、職種によって男女構成比が異なるため、必然的に女性が活躍しているかのような結果になってしまうのではないか。管理職より権限等の範囲で調査するのもよいかと思う。コロナ渦の中、医療現場で働く多くの女性に手厚い対応をお願いしたい。（40代　男性）

コロナ禍の中でというわけではないが、福祉国家、フィンランドやスウェーデンなどの国を見ていると、女性が首相、しかも若く・・・。そういった国々では、やはり女性のリーダーが多いように思う。
特に福井県は、とても閉鎖的な県民性、気質があるので、まずはリーダーに女性や若者を多く起用して街を盛り上げてほしい。（30代　女性）

6　個性や能力を生かす学校教育の推進

子供が長期休みになると女性に負担がかかるのは、男性の方が給与が高い仕事についていることが多いため、社会の認識のためだと思う。
女性でも男性と同等に働く人も増えているので、子供の頃から性差で得意不得意あると思うが、足りない部分を補い合って暮らすことの重要性を学ぶべきだと考える。（50代　女性）

7　男女がともに担う地域社会づくり
職場では、ずいぶん隔たりはなくなっているように思うが、地域になると、未だ女性、子供の意見や参加は却下されることが多い。（40代　女性）
町内も高齢化が進み、独居高齢者や空き家問題、町内会の役員もなかなか引き受ける人が限られており、心配である。（50代　女性）

8　防災等における男女共同参画の推進
女性は力では男性には勝てない。災害時の性被害等はまさにそのもの。何かあった時では遅いので、阪神淡路大震災等、他県のモデルを元に、災害が起こる前に女性のプライバシー、人権保護を確保していただけるよう望む。福井は男性が上という考えが根強く感じる。心配である。（40代　女性）

9　多様な性に関する意識
ＬＧＢＴについて、都会に比べ知っている人が田舎は少ない。都会は普通に周りが受け入れ接する人も多い。自身がそうだからではないが、そのことに気付いて驚いた。 高校でそういう関係の本が一冊もない。教師も無知。今後、ＬＧＢＴの人たちを受け入れる気があるなら、教育を高めるべき。（30代　女性）

10　男女共同参画の推進
特に、男女が平等じゃないと感じることがないので、男女共同参画は実現してきているように思える。（20代　男性）
男性だから偉い、女性だから偉いといったような極端なことがないようにそれぞれが支え合えるような環境作りをすること。環境や政策を進めるだけでなく、企業等も積極的に変えていけるように取り組んで頂きたい。（20代　男性）
啓発だけではなく、参画できる制度やペナルティを積極的に用意しないと期待している効果はでないと思う。（30代　男性）
約２年前に転勤で福井県に引っ越してきたが、こちらは子育て中の女性が働いていることが多く、自由に使える時間が少ないので、精神的にも余裕がないように感じる。女性は働く（仕事、家事）のが当たり前という雰囲気が強く感じられ、まずは社会全体の意識を変えることが大切だと思う。（40代　男性）
制度や環境作りは本当に大変なことだと思う。便利さということよりも、困っている人たちの支援ができる制度や環境を構築されることを願う。 個人的には制度や環境の整備を期待するよりも、まず各々の家族内や職場といったコミュニティ内の価値観の共有が必要だと考える。（40代　男性）
女性の権利獲得が進んできているが、所得格差などが依然としてあるところを改善できるといい。ただし、女性の意識改革も必要で、共同参画の意味合いを女性ももっと学ぶべきだとも思う。（50代　男性）
健全な社会を創るには、老若男女、障害者、外国人などの違いを超えて、人間として尊重する意識を持つことが大切であることを理解する機会を増やす。（60代　男性）

10　男女共同参画の推進
性別に関係なく、多様な考え方や生き方をお互いが受け入れて、みんなが生きやすい社会になることを望む。（20代　女性）
男女共同参画はずっと言われ続けているが、結局社会の意識が変わっていない。残業していると、家庭は大丈夫なのかと言われるのは女性で、先ずは男性が率先して帰るような意識や行動がないと女性の社会進出、キャリアアップなど到底難しい。仕事も家事も育児も、男女で責任を同じにしないと平等にはならない。（30代　女性）
個人差はあるものの、やはり男性は力仕事が向いており、女性はきめ細やかな作業が向いていたりする。そして何より子供を産む、産まないの違いがある。それなのに同じようにすることだけ考えてもダメかと思う。お互いに良さを承知した上で、何が必要かを考えるべき。考えも人それぞれなので一概に何がいいのかわからない。（40代　女性）
女性は〇〇の嫁さん、〇〇の奥さん、〇〇のお母さんと言われ、個人として認められる機会が少なく、主人の地元では、名前で呼ばれることはほとんどない。 こういう状況が少しずつでも変わっていけば、不登校の子どももトランスジェンダーの方も、もっといろいろな世間的にマイナスイメージの人たちがストレスを感じないで生活できるようになるのでないか。（50代　女性）

11　コロナ禍の中で気付いたこと
コロナ禍で仕事が急増した時、任せられるのは若い男性職員である。家庭を持っていないとそれだけで多くの残業が強いられる。（20代　男性）
コロナ禍で子の保育園入園を延期し、妻の育休を延長せざるを得なかった。当然収入も減り、公的施設、サービスの重要性を痛感した。家事育児を夫婦で分担したところで、総量は減らない。分担できない仕事もある。手間を金銭で代えたり、外部化したりすることが、平等を下支えすると思う。それが行政の仕事だと思う。（30代　男性）
コロナ禍の中での人員削減等、男女平等に行われているのか。（50代　男性）
コロナで学校が休みになったとき、仕事があるのに休みをとるのはどうしても母親の方になってしまう。給与の金額がどうしても父親が多いので当然ではあるが。子育ての負担はどうしても母親がかかることが多い。（30代　女性）
感染対策について、男性は、罹ってしまったら仕方ないと言うが、女性は、家庭の事、家事の事を考えるため、絶対罹れないと思う。双方の思いの違いがあると思う。飲み会も平気で行けるのはその考え方の違いからきていないのだろうか。（50代　女性）
コロナ渦で家にいることの窮屈さを味わった男性は多いはず。男性の方がもっと男女共同参画に真剣に取り組んでいけば、定年離婚等が減るし、会社での働き方が変わると思う。 定年または仕事がなくなったとき、何をするか、何ができるのか、家庭での位置付けも重要。マメな人は家庭で大事にされると思う。（60代　女性）

男女共同参画に関する福井市民意識アンケート調査

● 御協力のお願い

福井市では、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指して、第５次男女共同参画基本計画に基づき、様々な事業に取り組んでいます。

今回、新たに「第６次男女共同参画基本計画」を策定するにあたり、市民の皆様の男女共同参画に関する意識と実態を把握し、今後の施策に反映させることを目的に、市民意識アンケート調査を実施いたします。

この調査票は、令和２年７月１日現在の住民基本台帳から、無作為に抽出した２０歳以上の１，５００名の方々にお送りしています。無記名でお答えいただいた上で、統計的な処理を行うため、個人が特定されることはなく、調査結果は目的以外に使用することは決してございません。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願いいたします。

令和２年８月

福　　井　　市

【 御記入にあたってのお願い 】

1　調査票は、封筒のあて名御本人様が記入してください。

2　回答は、あてはまる番号を〇で囲んでください。記述式のところは御意見などをお書きください。
回答時間は１０分ほどです。

3　御記入後は、同封の返信用封筒に入れて、**８月２８日（金）**までに御投函ください。（切手不要）

4　調査票について、不明な点や御質問がございましたら、下記へお問い合せください。

【 問い合せ先 】

福井市 総務部 未来づくり推進局
女性活躍促進課
ＴＥＬ：０７７６-２０-５３５３
ＦＡＸ：０７７６-２０-１５３８
E-mail：josei@city.fukui.lg.jp

◆ あなた自身のことについて

問１　性別は

１．男性　　２．女性

問２　年齢は

１．２０～２９歳　　２．３０～３９歳　　３．４０～４９歳
４．５０～５９歳　　５．６０～６９歳

問３　職業についてお答えください。
※なお、出産休暇、育児休業中の人は働いているものとみなします。

１．会社員・公務員（フルタイム）　２．自営業・自由業（フリーランスなど）
３．アルバイト・パートなど　４．学生
５．無職（専業主婦・主夫、定年後等）

問４　結婚していますか。

１．結婚している
２．結婚していない
３．結婚していたが、離婚または死別した
４．結婚していないが、パートナーと暮らしている

問５　家族構成は

１．一人暮らし　２．夫婦のみ
３．親と子（２世代）　４．親と子と祖父母（３世代）
５．その他（　　）

◆ 男女平等に関する意識について

問６　現在、①～⑦の分野で男女平等になっていると思いますか。
（それぞれ１つだけに○）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
①家庭生活	1	2	3	4	5	6
②職場	1	2	3	4	5	6
③地域活動	1	2	3	4	5	6
④社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
⑤法律や制度上	1	2	3	4	5	6
⑥政治の場	1	2	3	4	5	6
⑦学校教育の場	1	2	3	4	5	6

問７　結婚・家庭などについてどうお考えですか。（それぞれ１つだけに○）

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
②結婚したら子どもを持つべきである	1	2	3	4	5
③夫は外で働き、妻は家庭で家事・育児に専念するべきである	1	2	3	4	5

◆ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問８　現在、ご家庭で家事や育児の男女の役割分担はどうなっていますか。
（①～⑮の項目について、１つだけに○）

	すべて女性が担当	主に女性が担当し男性は手伝う程度	男女同じ程度	主に男性が担当し女性は手伝う程度	すべて男性が担当	該当する人がいない該当する選択肢がない
①掃除	1	2	3	4	5	6
②洗濯	1	2	3	4	5	6
③食事のしたく	1	2	3	4	5	6
④食事の後片付け	1	2	3	4	5	6
⑤ごみの分別・ごみ出し	1	2	3	4	5	6
⑥食材、日用品の買出し	1	2	3	4	5	6
⑦乳幼児の世話（子または孫）	1	2	3	4	5	6
⑧子どもの教育	1	2	3	4	5	6
⑨看護	1	2	3	4	5	6
⑩介護	1	2	3	4	5	6
⑪家計の管理	1	2	3	4	5	6
⑫車の手入れ・洗車	1	2	3	4	5	6
⑬地域活動（自治会など）	1	2	3	4	5	6
⑭ＰＴＡ活動	1	2	3	4	5	6

問９　男性の家事・育児・介護への参画についてどうお考えですか。（１つだけに○）

１．積極的に参画するべきである
２．ときどきは参画するべきである
３．仕事があるため、参画できなくてもやむを得ない
４．女性がすることなので、手伝う程度でよい
５．その他（　　）

問１０　現在、全国的に見ても、男性の育児・介護休業の取得率は低い状況にありますが、それはなぜだと思いますか。（２つまで○）

１．取得した場合、経済的に苦しくなる
２．職場の理解が得られない
３．仕事の評価や配属に影響する
４．取得する必要がないと考える男性が多い
５．周囲に取得した男性が少ない、またはいない
６．その他（　　）

◆ 男女がともに担う家庭生活づくりについて

問１１　男女がともに家事・育児・介護に携わるためには、どのようにしたらよいと思いますか。（２つまで○）

１．家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う
２．家庭や学校で、性別に関係なく家事・育児・介護に携わることの大切さを教える
３．職場で、残業時間の削減や、在宅勤務などの柔軟な働き方ができる体制づくりを進め、育児・介護休業取得を促進する
４．行政が、男性への家事・育児参画のための講座や情報提供などを行う
５．その他（　　）

◆ 男女とも活躍できる職場環境の推進について

問１２　【出産をされた方にお聞きします。】

（１）出産後（産後及び育児休業取得後含む）に仕事を辞めましたか。また辞めた場合の理由は。（１つだけに○）

１．辞めた　　理由（　　）
２．辞めなかった

（２）【（１）で「２．辞めなかった」に○を付けた方に質問します。】
育児休業を取得しましたか。また取得しなかった場合の理由は。（１つだけに○）

１．取得した
２．取得しなかった　　理由（　　）

（3）【（2）で「1．取得した」に○を付けた人に質問します。】
復帰後の部署は、育児休業取得前の部署から変更がありましたか。また変更があった場合の理由は。（1つだけに○）

1．変更があった 理由（①勤務先の都合、②自身の都合、①と②の話合いの結果） 2．変更はなかった

問13　男女がともに活躍できる職場にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（2つまで○）

1．育児や介護など、家庭と両立ができる職場の支援制度 2．時差通勤や在宅勤務など、柔軟な働き方ができる環境作り 3．職場内のコミュニケーション 4．男女ともにキャリアアップを目指せる環境作り 5．その他（　　）

◆ 政策・方針決定過程への女性参画について

問14　【働いている方にお聞きします。】 ※働いた経験のある方もお答えください。
職場に女性の管理職がいます（いました）か。

1．いる（いた）	2．いない（いなかった）	3．わからない

問15　【女性にお聞きします。】　※働いた経験のある方もお答えください。
（1）管理職になることについて、どう思いますか。（1つだけに○）

1．なりたい	2．なりたくない
3．わからない	4．その他（　　）

（2）【（1）で「2．なりたくない」に○をつけた方にお聞きします。】
それは、どのような理由からですか。（1つだけに○）

1．責任が重くなるのが嫌だから 2．残業時間が増えそうだから 3．自分の能力に自信がないから 4．仕事と家庭の両立が困難だから 5．職場に女性管理職を受け入れる環境が整っていないから 6．職場に女性の管理職が少ない、またはいないから 7．その他（　　）

◆ 個性や能力を生かす学校教育の推進について

問１６　学校教育において、性別に関係なく個性や能力を生かしていくために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（２つまで○）

１．キャリア教育（将来、子どもたちが社会的に自立し、自分らしい生き方を実践することを学ぶ教育）を充実させる
２．学校生活において、様々な考え方を持つ人がいることに気付き、互いを認め合う力を養う
３．地域や家庭生活において、子どもにボランティア活動や家事分担など、様々な体験をさせる
４．その他（　　）

◆ 男女がともに担う地域社会づくりについて

問１７（１）地域活動・社会活動の参加について、あなたが参加しているものに○をつけてください。（あてはまるもの全てに○）

１．子ども会・ＰＴＡ	２．自治会・防災防犯
３．老人会・婦人会	４．社会奉仕・福祉
５．消費生活・環境保護	６．地域のまちづくり
７．その他（　　）	８．参加していない

（２）【（１）で「８．参加していない」に○をつけた方にお聞きします。】
地域活動・社会活動へ参加していない理由は何ですか。（３つまで○）

１．子どもの世話や老人の介護	２．仕事が忙しい
３．配偶者や家族の理解がない	４．人間関係がわずらわしい
５．自分の性格に合わない	６．活動する仲間がいない
７．役員や世話人にされそうだから	８．参加したくない
９．その他（　　）	

問１８　現在、自治会など、地域団体における長の女性の割合が低い状況にあります。今後、女性の視点を地域に取り入れるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（２つまで○）

１．男性中心の組織運営や慣習・しきたりを見直すための意識啓発を図る
２．女性自身が積極的に地域活動に参画する意識を持つ
３．家族が協力して家事などを分担し、女性が参加しやすいようにする
４．女性は積極的に地域活動に参加する必要がない
５．その他（　　）

防災等における男女共同参画の推進について

問１９　災害時に男女共同参画の視点を取り入れた避難所とするには、どのようなことが必要だと思いますか。（２つまで○）

１．男女別のトイレや更衣室など、プライバシーの確保
２．男女のニーズに配慮した物資を備蓄する
３．避難所の運営に男女双方の意見を反映させる
４．日頃から、男女ともに地域でのコミュニケーションを大切にする
５．その他（　　）

◆ 配偶者等からの暴力防止に関する意識について

問２０　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）（※）を受けたことがありますか。また、周りに受けた（受けている）人がいますか。（それぞれ１つだけに○）

【自身】　１．受けたことがある　　２．受けたことがない

【周囲】　１．周りにいる　　２．周りにいない　　３．わからない

（※）ＤＶ・・・ Domestic Violence（ドメスティック・バイオレンス）
配偶者やパートナーから振るわれる暴力

問２１　配偶者やパートナーからＤＶを受けた場合に、相談する機関を知っていますか。（あてはまるもの全てに○）

１．内閣府（ＤＶ相談ナビ）
２．法務局（女性の人権ホットライン）
３．福井県生活学習館（ユー・アイふくい）
４．福井県総合福祉相談所
５．福井健康福祉センター
６．福井県人権センター
７．福井市ひとり親家庭就業・自立支援センター
８．福井市男女共同参画苦情処理機関
９．警察安全相談室
10．その他（　　）

問２２　配偶者やパートナーからのＤＶをなくしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（２つまで○）

１．ＤＶ防止について、啓発の機会を増やす
２．学校で、暴力をなくしていくための教育を行う
３．加害者への処罰の強化や、更生のための教育を行う
４．男女間の経済的な格差をなくしていく
５．相談機関の周知及び体制強化
６．その他（　　）

◆ 多様な性に関する意識について

問２３　性的指向や性自認（※）について、悩んだことがありますか。また、周りで悩んだ（悩んでいる）人がいますか。（それぞれ１つだけに〇）

【自身】　１．悩んだことがある　　２．悩んだことがない

【周囲】　１．周りにいる　　２．周りにいない　　３．わからない

（※）性的指向（どのような性別の人を好きになるか）

L　Lesbian　レズビアン：心の性が女性で恋愛対象も女性

G　Gay　ゲイ：心の性が男性で恋愛対象も男性

B　Bisexual　バイセクシュアル：恋愛対象が女性にも男性にも向いている

（※）性自認（自分の性をどのように認識しているのか）

T　Transgender　トランスジェンダー：身体の性と心の性が一致しないため、身体の性に違和感を持つ人

問２４　現在、性的指向や性自認に悩む方にとって、偏見や差別により生活しづらい社会だと思いますか。（１つだけに〇）

１．思う　　２．どちらかといえば思う
３．どちらかといえば思わない　　４．思わない
５．わからない

問２５　性的指向や性自認に悩む方が生活しやすくしていくためには、どのような取組が必要だと思いますか。（２つまで〇）

１．学校や職場での配慮（制服や更衣室・トイレの配慮など）
２．専門の相談窓口の設置
３．市の広報紙やホームページ、講演会、講座などによる啓発
４．申請書等の性別記載欄の削除
５．取組が必要とは思わない
６．その他（　　）

◆ 男女共同参画推進のための取組について

問２６　男女共同参画社会を推進していくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（３つまで○）

１．女性を各種委員や管理職などに積極的に登用する
２．企業などにおいて、男女がともに活躍できる環境となるよう啓発を進める
３．育児や介護のための施設やサービスなどを充実させる
４．子育てや介護などでいったん仕事をやめた方への再就職を支援する
５．ワーク・ライフ・バランスが取れるよう、残業時間の削減や在宅勤務の普及啓発を進める
６．男性の育児・介護休業取得や家事・育児・介護への参画を促進する
７．学校教育や社会教育の場で、男女の相互の理解や協力についての学習を充実させる
８．地域において、男女とも積極的に地域活動に参画するよう啓発を進める
９．その他（　　）

◆ 男女共同参画に関する意見について

問２７　男女共同参画について御意見などがあれば、御記入ください。
（コロナ禍の中で､男女共同参画について気付いたこと等も御記入ください。）

これでアンケートは終わりです。御協力いただき、誠にありがとうございました。

男女共同参画都市福井宣言

わたしたちは自立・平等・平和を基本理念として男女があらゆる分野にともに参画し
ともに築くやさしさと活力ある福井をめざしここに「男女共同参画都市」を宣言します。

1

お互いの立場を思いやり　みんなで家事や育児や介護を
協力しあう「おもいやり家庭」をつくります

2

自らが意識を変え世代を超えたふれあいに努め
ともに参画し個性を生かしあう「ふれあい地域」をつくります

3

家庭での男女共生をもとに能力や機会を生かし
対等なパートナーシップで励みあう「きょうせい職場」をつくります

平成１０年３月１６日制定

令和２年度

男女共同参画に関する
福井市民意識
アンケート調査報告書

令和２年 12 月発行

福井市 総務部 未来づくり推進局
女性活躍促進課

〒910-0858　福井市手寄１丁目４番１号
アオッサ５階